

出前講座
地域の研究に
データを活用してみよう！

データで信州の
未来を創ろう

RESAS



はじめに : 講座を担当する私たちのご紹介



地域の課題解決・成長に寄与する 地域のための総合政策シンクタンク

事業内容:

- 行政計画策定
- 社会調査／市場調査
- 研修企画、実施
- 市民会議等のファシリテーション
- プロモーション
- 各種コンサルティング 等

業務分野:

- 産業（農業・観光・サービス業・工業振興等）、地域ブランド
- 医療・福祉
- 地域公共交通
- 教育・文化振興
- 協働制度構築、ファンドレイジング等

本日の講座の内容（90分）

1. 講座の目的と意義
2. 統計データの活用のポイント
3. RESASの紹介
4. RESASの基本操作
5. RESASを使ってみよう(塩尻市の人口分析)

この講座で
学ぶこと

データを活用することで「説得力」をもった

- ① 地域の問題・特徴の示し方
- ② 地域の問題の解決策や
地域の強みを活かした企画の作り方



1. 講座の目的と意義

本講座の狙い

今回の学びの最終的なゴールは、

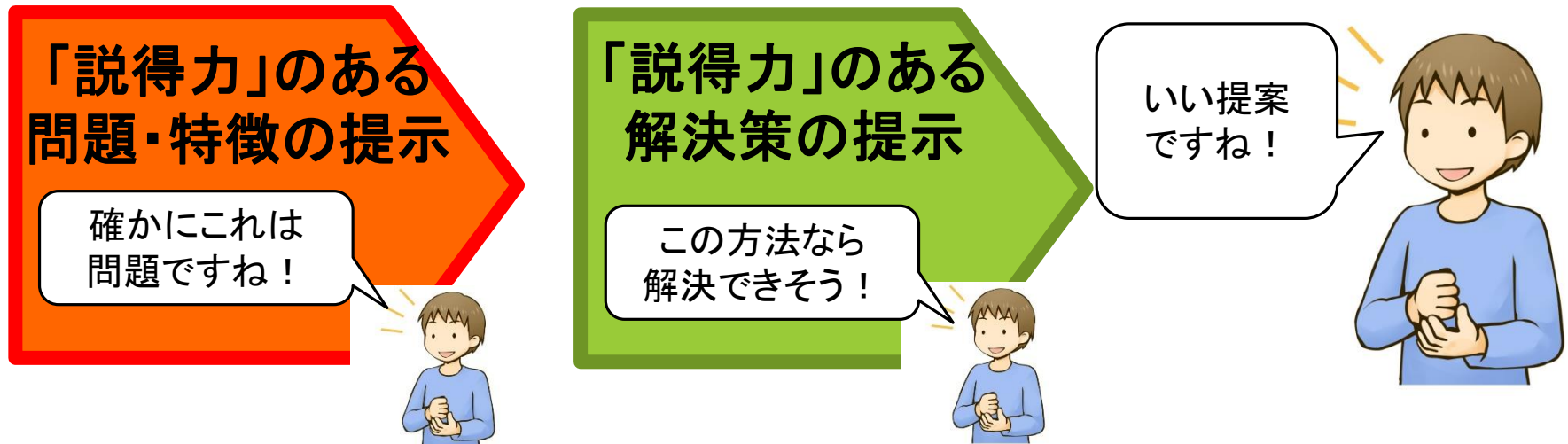
“地域(まち)”の「困りごとの解決」や「魅力づくり」を

効果的に進めるための「提案力」を身につけることです。

このための第一歩として、本日は、

地域の問題や特徴(魅力)を、「説得力」をもって示す方法を学びます。

さらに、「説得力」のある提案をつくる方法を学びます。



地域（まち）づくりの提案に「説得力」が必要な理由

なぜ、地域(まち)づくりの提案には、「説得力」が必要なのでしょうか？

それは、

「地域(まち)を変えるには、



多くの人々の協力が必要になる」から。

しかし、

・地域(まち)は広く、複雑

→問題・特徴を正確に捉えることが難しい

・地域(まち)には様々な年齢、考え、立場の人々が暮らしている

→誰かが問題・特徴だと思ふことが“共有できる”とは限らない

騒がしくなく
なって嬉しい



まちの活気が
ないなあ...



立ち退いて
くれない人が
いて、再開発
が進まない...

➡ 地域の問題や特徴を“みんな”と共有するには「説得力」が必要

「説得力」のある問題・特徴の提示には「根拠」が必要

例：住んでいるまちの観光資源を活かして地域を活性化したい

地域の問題

住んでいるまちには魅力的な観光地がある。最近では宿泊している人が減ってきている。地域にお金が落ちていないような…。

根拠 1

近所のおじさんが言っていたから

根拠 2

旅館の経営者が減っていると言っていたから

根拠 3

- ・統計によると、客室稼働率が下がってきている。
- ・一人当たりの消費額も減ってきている。その金額は他の観光地と比較しても低い。
- ・アンケートによると、観光客の消費額で高いのは「宿泊費」である。

提案

私のまちの観光振興を進めるには、宿泊者数を増やし、消費額の増加を目指していくことが必要！

どの根拠をもって説明すれば「説得力」が高まるか？

★確かな情報源

★数値で示す



「説得力」のある提案には「根拠」が必要

地域の問題・特徴

魅力的な観光地がある。
しかし、宿泊につながっていない。
魅力がない。

提案

宿泊者数の増加に向けた仕組みが必要。

企画

ターゲットは？

客層は？

- ① シニア層(夫婦)
- ② 子育て世帯
- ③ 大学生
- ⋮

居住地は？

- ① 東京都
- ② 愛知県
- ③ 大阪府
- ⋮

宿泊してもらおうアイデア

- ① 中高年がゆっくり楽しめる宿泊プラン
- ② 子どもが楽しめる宿泊施設にする
- ③ 若者が安く気軽に泊まれるプラン
- ⋮

目的は同じでも手段(方法)は無数にある。
説得力のある提案をするにはどうすればいい？



「根拠」をつくるためのデータは様々にある

●人の話を聞く

○ヒアリング

- ・宿泊や飲食事業者にどんな客層が来ているか聞いてみる

●本や資料を探す

○文献調査

- ・旅行ガイドブックをみる
- ・周辺観光地の情報を調べてみる
- ・先行研究をみる

●データを探す

○統計

- ・どこの地域から多く訪れているかをみる
- ・旅行形態をみる
- ・周辺観光地の宿泊率をみる

○アンケート

- ・観光地に訪れている人に聞いてみる

企画

ターゲットは？

客層は？

- ① シニア層(夫婦)
- ② 子育て世帯
- ③ 大学生

居住地は？

- ① 東京都
- ② 愛知県
- ③ 大阪府

宿泊してもらおうアイデア

- ① 中高年がゆっくり楽しめる宿泊プラン
- ② 子どもが楽しめる宿泊施設にする
- ③ 若者が安く気軽に泊まれるプラン

⋮

確かな根拠を持って企画することで説得力が生まれる

本講座で学ぶこと

データ(今回は「統計」)を活用して

- ・地域の問題や特徴(魅力)を、「説得力」をもって示す方法
- ・「説得力」のある提案をつくる方法



「説得力」のある
問題・特徴の提示

「説得力」のある
解決策の提示

人々の
共感・協力・行動を引き出す
↓
「困りごとの解決」
「魅力づくり」

地域分析や企画立案に活用できる主なデータ

数値(定量的な情報)

アンケート

統計



言葉・文章(定性的な情報)

文献

ヒアリング

観察・体験

今回はデータのうち「統計」に注目し「RESAS」の活用も含めて学ぶ

2. 統計データの活用のポイント

■「データを活用」の考え方

問題解決や新しい価値・魅力の創造のためにデータを活用すること。

「データ活用」のためには、まずデータを「収集」し、意味を読み解くため「分析」し、人に伝えるために「表現」することが必要となる。

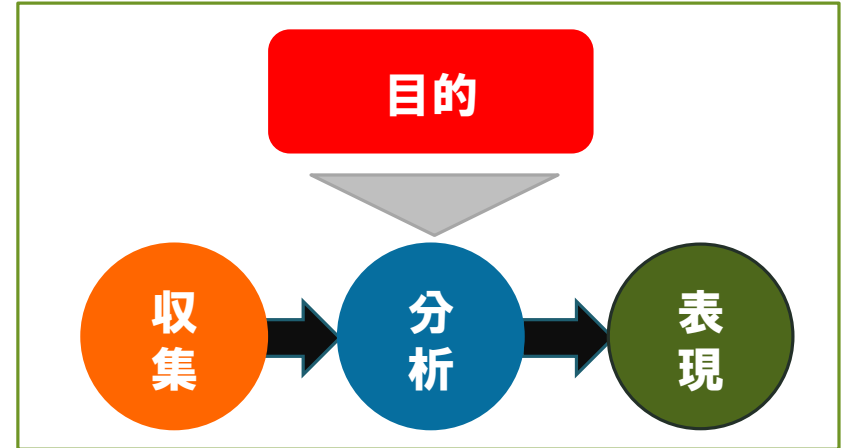


統計データの有効活用のためのポイント



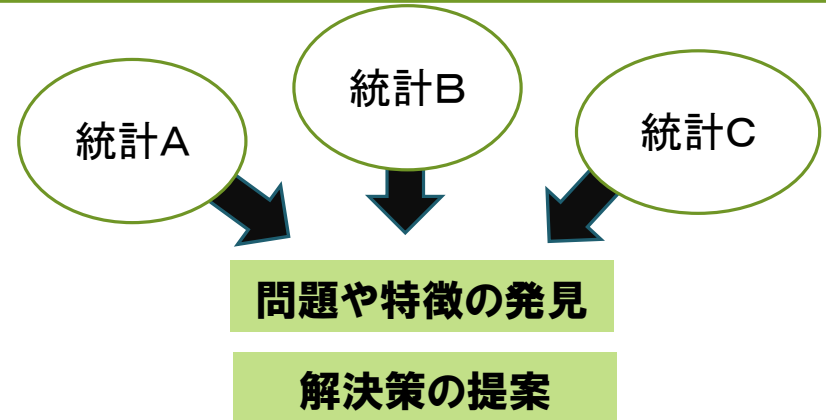
ポイント1: 目的を持って取り組む

- データは、無数にある。明らかにしたいこと（目的）をハッキリと意識しないと、どのようなデータを集め、どのような分析をすべきかは、見えてこない。
- 何のために、データの収集⇒分析⇒表現を行い、何を明らかにするのか、確認するのかを見失わずに取り組むことが必要



ポイント2: 目的に応じ、データを取捨選択し、多角的な視点で考える

- 統計情報、アンケート調査、ヒアリング調査等様々なデータがある。
- 関係する情報を収集し、多角的にみていくことが必要。（データ間で、異なる傾向がでる場合もあります。）



例：調査目的を持って多くのデータを探すイメージ

ポイントは、集めるべき情報を考えながら、該当するデータを探すこと

問題・特徴の発見

観光産業が元気がない。なぜ？何が問題か？

誰が、どこに、どのくらい来ているのか？

いくら使っているの？

どのくらい滞在しているの？

観光客数(国内／海外)

観光消費額

日帰り／宿泊比率

解決策の検討

もっと旅行者を呼び込むヒントはないの？

どの国の人か、どこに、どのくらい来ているのか？

団体旅行、個人旅行？

どんなルートで移動しているの？

国籍別の観光客数

旅行形態

立ち寄り地点

統計データの有効活用のためのポイント



ポイント3: 「全体像」を把握してから、「詳細分析」をする

- 全体像を知らないまま、詳細の分析を進めると強みや弱みを読み間違えたり、状況がわからなくなる。

例：人口：総人口⇒年代3区分人口、人口ピラミッド
⇒自然増減、社会増減

例：産業：大分類⇒中分類⇒小分類

従業者数を示すデータ



青色が製造業



統計データの有効活用のためのポイント

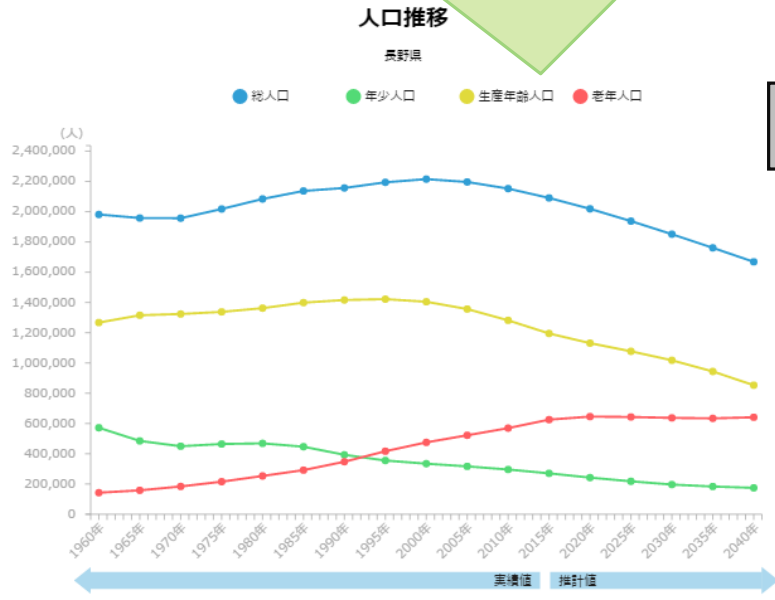


ポイント4: データの構造・仕組みを把握する

- 統計データの構造を知っておくと、必要なデータを収集しやすくなる上に、強みや課題を見つけやすくなる。

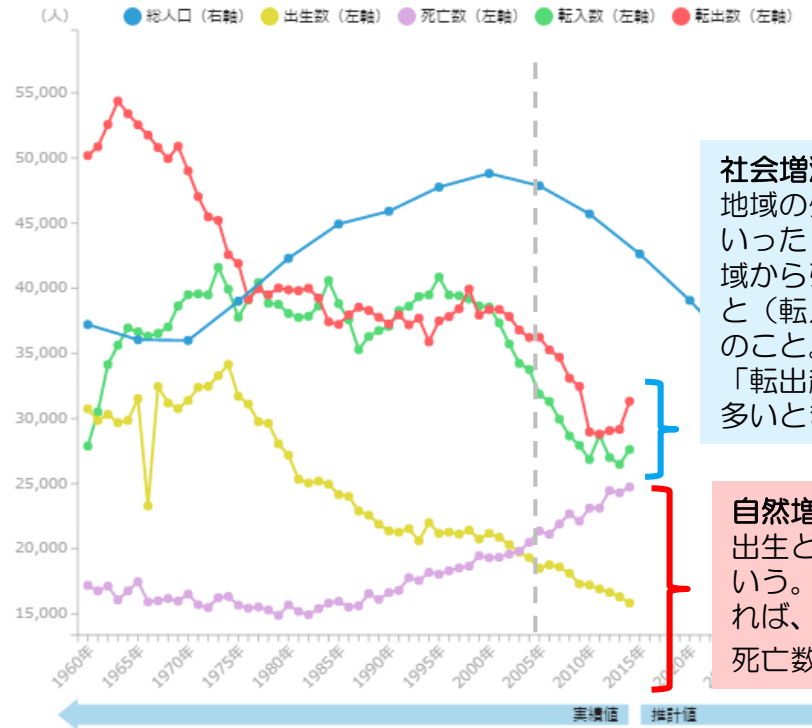
例：長野県の人口の増減について

長野県の総人口は2000年(2,215,168人)をピークに減少している。
総人口が減り始めた要因は？



自然増減
出生数・死亡数

社会増減
転入数・転出数



社会増減
地域の外に住民が引っ越していったり（転出数）、よその地域から引っ越してきたりすること（転入数）による人口の増減のこと。出て行く人が多い時は「転出超過」。入ってくる人が多いときは「転入超過」

自然増減
出生と死亡による人口の増減をいう。出生数が死亡数を上まわれば、自然増となる。出生数が死亡数を下回ると自然減となる。

【出典】RESAS 人口マップ-人口構成、人口増減／総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

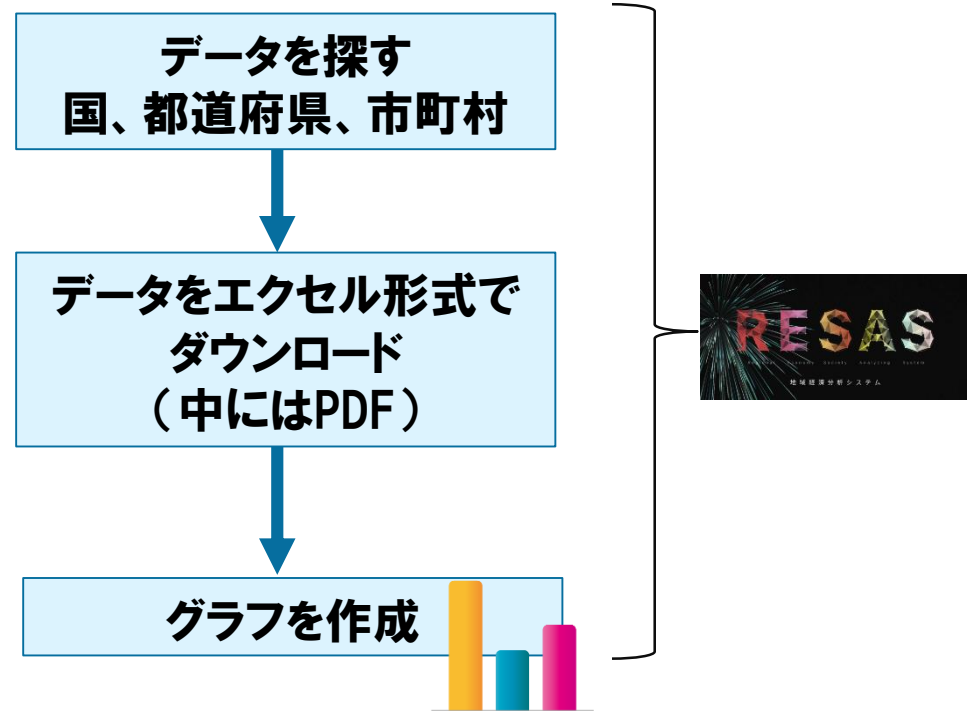
長野県の出生数と死亡数をみると、2003年に逆転し、以降、死亡数が上回っている。また、長野県の転入・転出数は拮抗しつつ推移してきたが、2001年から転出数が上回っている。自然増減(出生数-死亡数)、社会増減(転入数-転出数)ともに長野県の人口減少の要因となっている。

情報を収集する方法～統計情報はどこにあるか

- 統計情報は、国、県、市町村、その他、団体や企業等が公開・提供しているものがある。国、県、市町村が提供している統計情報は、数値をExcelやPDF形式で公開している。データをダウンロードし、加工し、グラフの作成を行う。
- この後、説明をするRESASは、人口、産業などの分野の一部データのグラフ化までを自動的に行ってくれる便利なツール。

国・県・市町村の代表的な統計情報

	代表的な統計情報
国	総務省：国勢調査 経産省：経済センサス 農水省：農林センサス
県	毎月人口異動調査 県民経済計算
市町村	住民基本台帳



例：国勢調査のデータを収集する

e-Stat 政府統計の総合窓口

ホーム お問い合わせ ヘルプ English 文字拡大・読み上げ

統計データを探す 地図や図表で見る 調査項目を調べる 統計サイト検索・リンク集 ログイン

トップページ > 統計データを探す > 統計表一覧

統計表一覧

各行にある Excel CSV PDF DB のボタンを押すと該当データが表示されます。

平成27年国勢調査 > 速報集計 > 抽出速報集計

作成機関 2016年6月29日公表 DB

クリックすると数値データをダウンロードできる

※大項目	地域コード	地域識別コード	地域	総数(年齢0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳		
1	101	0a	全国	1.27E+08	967100	1000000	1039000	1056900	1057400	1041900	1023100	
1	101	1b	市部	1.16E+08	891000	918400	955800	966900	971900	957100	931000	
1	101	2b	郡部	10972200	76100	81500	83200	90000	85400	84900	92000	
1	102	0a	全国	1.24E+08	951400	981100	1024400	1040200	1043600	1028800	1008900	
1	102	1b	市部	1.13E+08	875500	899500	942000	950700	958600	944100	917400	
1	102	2b	郡部	10871500	76000	81500	82400	89500	85000	84700	91600	
1	201	0a	全国	61829200	499300	507900	529300	543100	540600	530400	517400	
1	201	1b	市部	56521200	459500	467700	488200	496900	498600	483900	470100	
1	201	2b	郡部	5308100	39800	40200	41100	46200	41900	46500	47300	
1	202	0a	全国	60301700	491500	499000	522000	535300	533800	523900	510800	
1	202	1b	市部	55039900	451700	458800	481500	489600	492100	477500	463700	
1	202	2b	郡部	5261800	39800	40200	40500	45700	41700	46400	47100	
1	301	0a	全国	65280800	467700	492100	509700	513800	516800	511500	505600	
1	301	1b	市部	59616700	431500	450800	467600	470000	473300	473200	460900	
1	301	2b	郡部	5664100	36300	41300	42100	43800	43500	38300	44700	
1	302	0a	全国	63670700	459900	482100	502400	504900	509900	505000	498100	

統計情報を収集するときの注意点

データを収集するときは「誰が」実施した調査なのか、「いつ」の時点のどの調査なのか、「どんな」調査方法なのか、確認しながら集める必要があります。

必ず、出典を記載する

出典の記載例

出典：総務省統計局「国勢調査」(平成22年)

調査によって、対象範囲・数値の算出の仕方が異なる場合があります。

例：総人口

●●市の
総人口

総務省：国勢調査(5年に1回)
⇒ふだん住んでいる場所

市町村：住民基本台帳
市町村の「住民基本台帳」に登録されている人の数
⇒生活の拠点

住民票を移動せずに、
他の市町村に居住
している場合は、住
民基本台帳の方が
総人数が多くなる

その他、注意 すべきこと

● 合併した市町村のデータ

合併前のデータは、旧自治体別に示されています。合併前のデータと比べる場合は、旧自治体の数値を考慮する必要があります。

● 調査カテゴリーの変更

調査項目の分類が、時代にあわせて変化する場合があります、推移を見るときは注意する必要があります。

例：経済センサスの小分類は、「日本標準産業分類」を基に作成している。

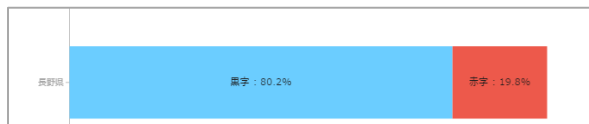
平成19年に「日本標準産業分類」の改定があり、調査項目の新設・廃止等が行われている。

統計情報を分析すること

分析する視点には、「構成」「変化」「比較」の3つがある。
 この3つの視点を用いることで、地域（まち）の特徴（強み・弱み）や企画を検討するときの判断材料を得られる。

構成

全体がどのような要素で構成されているか、内訳を確認する



変化(推移)

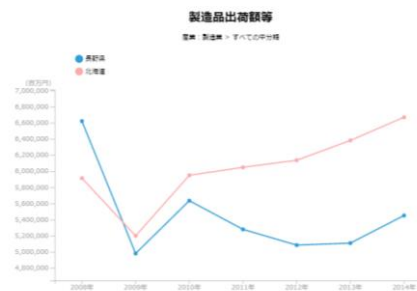
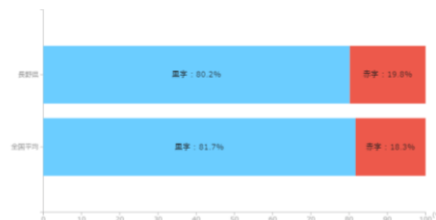
同一対象物の変化を時系列でみる



【出典】
 経済産業省「工業統計調査」、税務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」
 【その他の留意点】+

比較

量、長さ、重さ、強さなど、同一の基準で2つ以上の対象物を比べる



【出典】
 経済産業省「工業統計調査」、税務省・経済産業省「平成24年経済センサス-活動調査」
 【その他の留意点】+

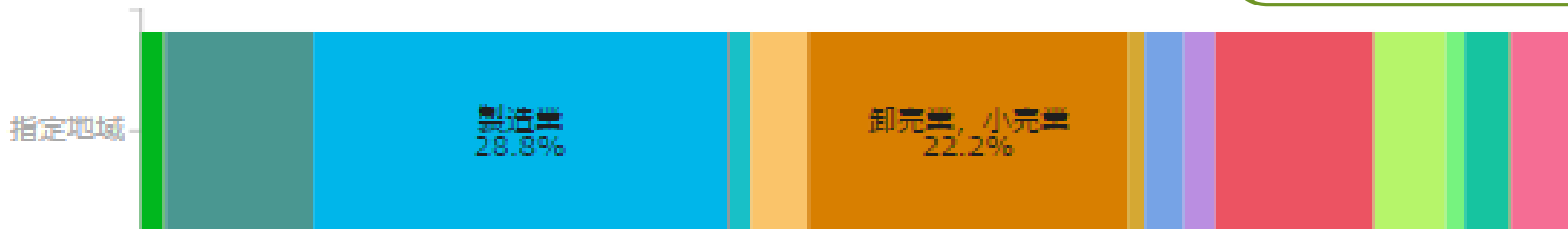
統計情報を分析すること

構成をみる

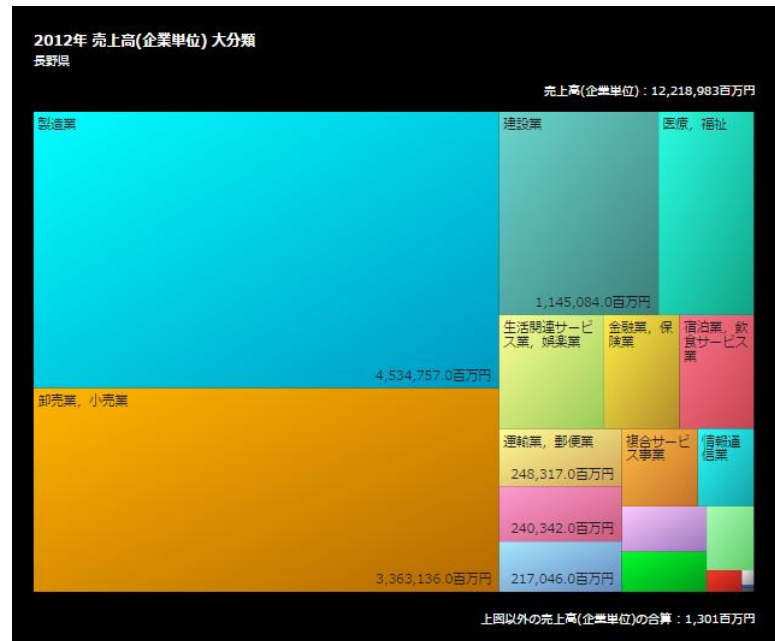
従業者数(企業単位) 2014年

指定地域：長野県

長野県の従業者数をみると、「製造業」の割合が最も高い。製造業は雇用を生み出し売上高も大きく基幹産業といえる。



- 農林業 119,162.0百万円 (1.0%)
- 建設業 1,145,084.0百万円 (9.4%)
- 情報通信業 156,060.0百万円 (1.3%)
- 金融業, 保険業 300,952.0百万円 (2.5%)
- 宿泊業, 飲食サービス業 297,420.0百万円 (2.4%)
- 医療, 福祉 686,163.0百万円 (5.6%)
- 公務 (他に分類されるものを除く) -百万円 (-%)
- 漁業 1,392.0百万円 (0.0%)
- 製造業 4,534,757.0百万円 (37.1%)
- 運輸業, 郵便業 248,317.0百万円 (2.0%)
- 不動産業, 物品賃貸業 217,046.0百万円 (1.8%)
- 生活関連サービス業, 娯楽業 422,250.0百万円 (3.5%)
- 複合サービス事業 207,654.0百万円 (1.7%)
- 分類不能の産業 -百万円 (-%)
- 鉱業, 採石業, 砂利採取業 6,193.0百万円 (0.1%)
- 電気・ガス・熱供給・水道業 26,657.0百万円 (0.2%)
- 卸売業, 小売業 3,363,136.0百万円 (27.5%)
- 学術研究, 専門・技術サービス業 137,663.0百万円 (1.1%)
- 教育, 学習支援業 107,434.0百万円 (0.9%)
- サービス業 (他に分類されないもの) 240,342.0百万円 (2.0%)



【出典】RESAS 産業マップー全産業花火図／総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」再編加工

統計情報を分析すること

推移をみる

製造品出荷額等

産業：製造業 > すべての中分類



【出典】RESAS 自治体比較マップー製造品出荷額等／経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」

統計情報を分析すること

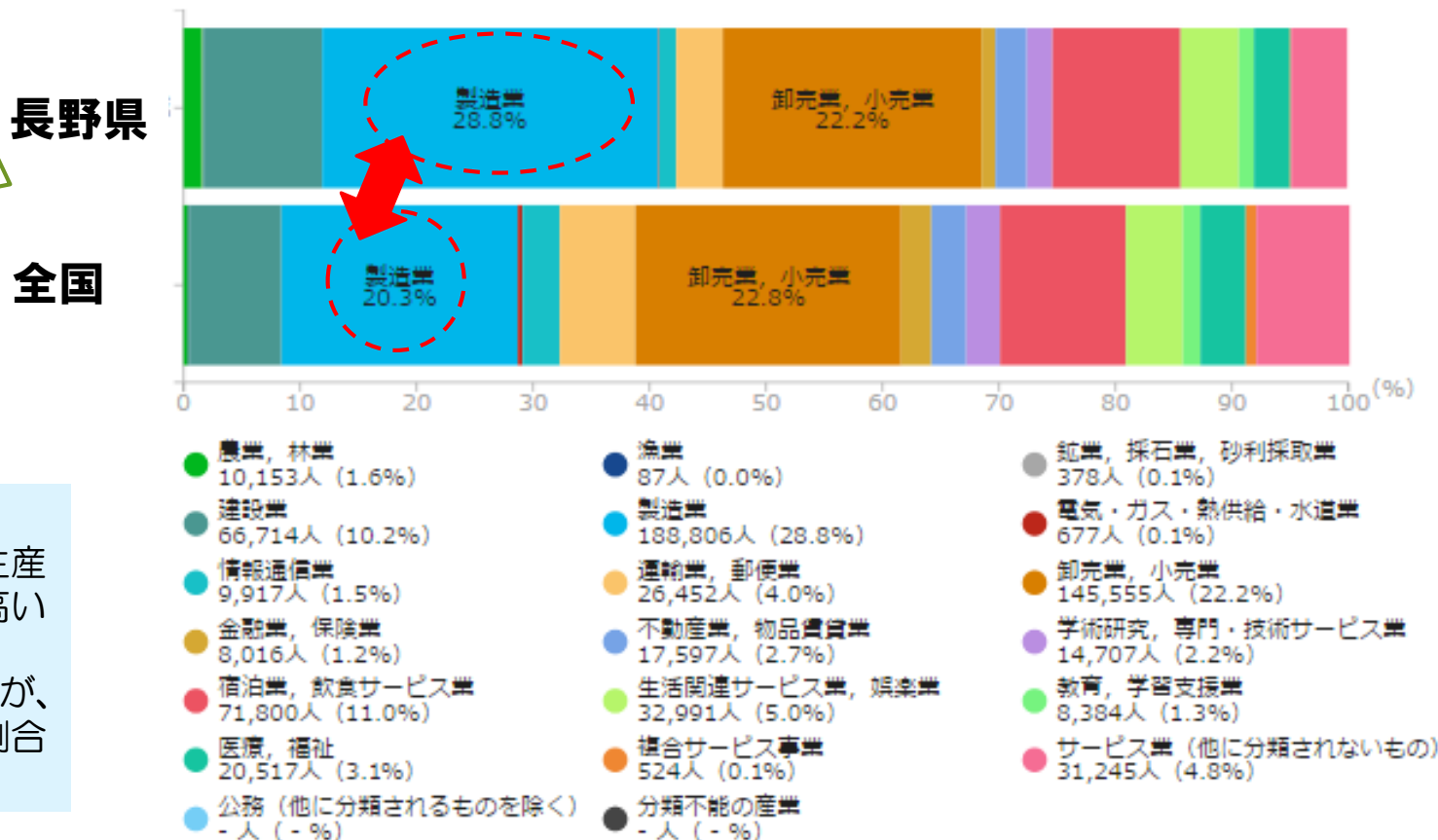
比較する

従業員数について全国の構成比と比較すると、製造業は長野県の方が割合が高い。全国と比べて、長野県における製造業は雇用を吸収している割合が高いといえる。

特化係数とは
ある地域内の産業のシェアや生産性が全国と比べてどれくらい高いかを表す指標。
1.0を超えていれば、当該産業が、全国と比べて、産業に占める割合が高いとされる。

従業員数(企業単位) 2014年

指定地域：長野県



特化係数の算出の仕方

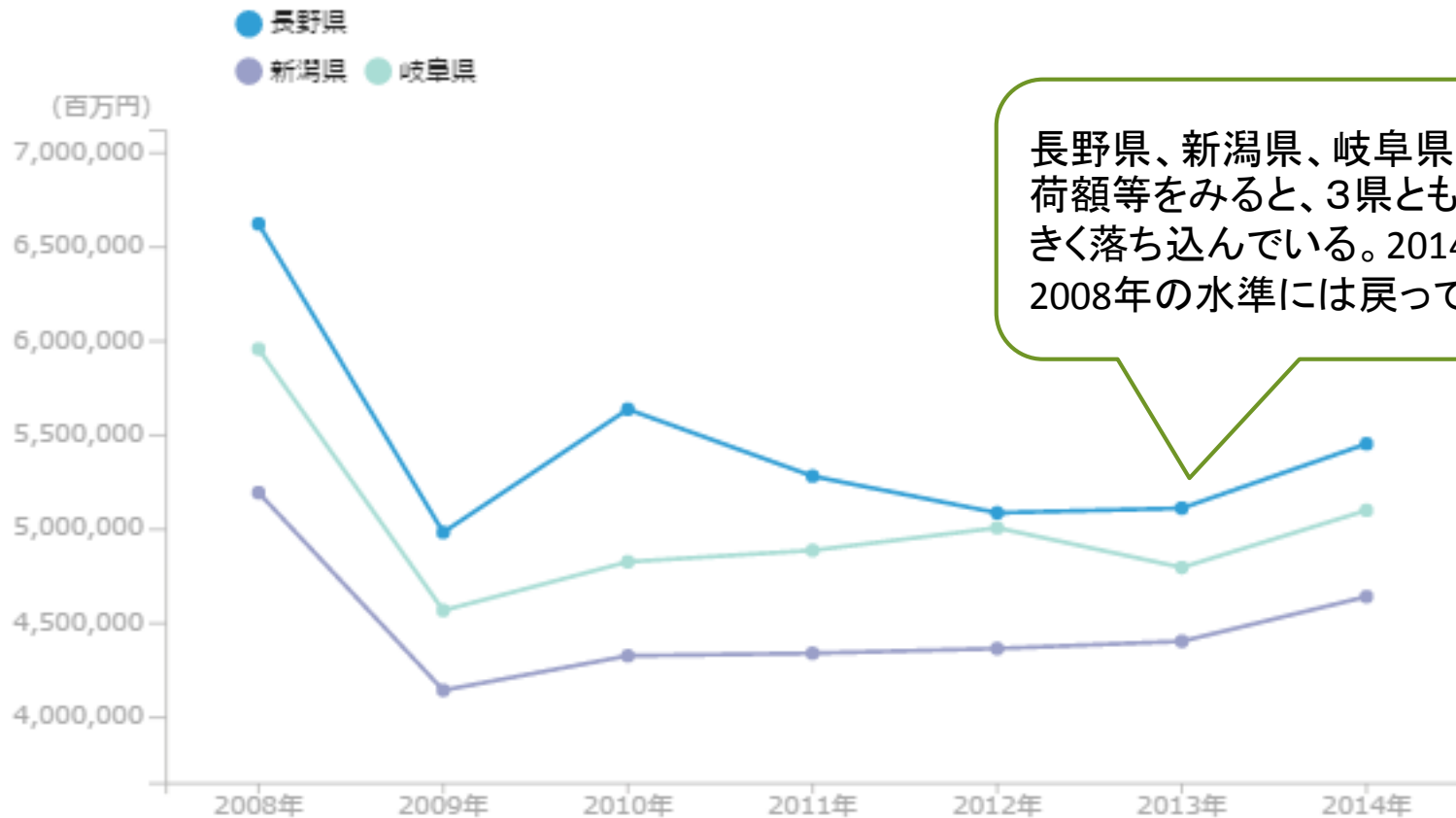
$$\frac{\text{長野県の産業の従業員数における製造業の割合 } 28.8\%}{\text{全国の産業の従業員数における製造業の割合 } 20.3\%} = 1.42$$

統計情報を分析すること

比較する

製造品出荷額等

産業：製造業 > すべての中分類



長野県、新潟県、岐阜県の製造品出荷額等をみると、3県とも2009年に大きく落ち込んでいる。2014年時点でも2008年の水準には戻っていない。

【出典】RESAS 自治体比較マップー製造品出荷額等／経済産業省「工業統計調査」、総務省・経済産業省「平成24年経済センサスー活動調査」

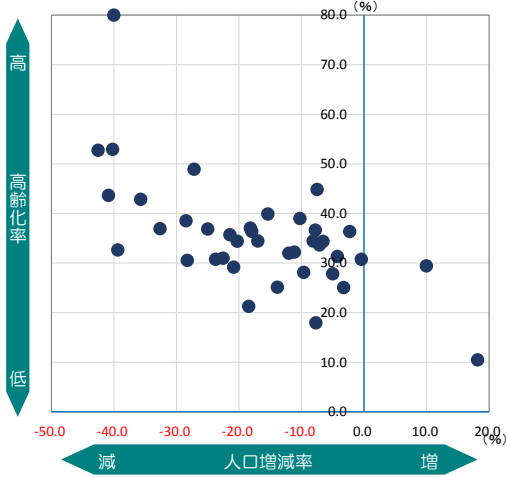
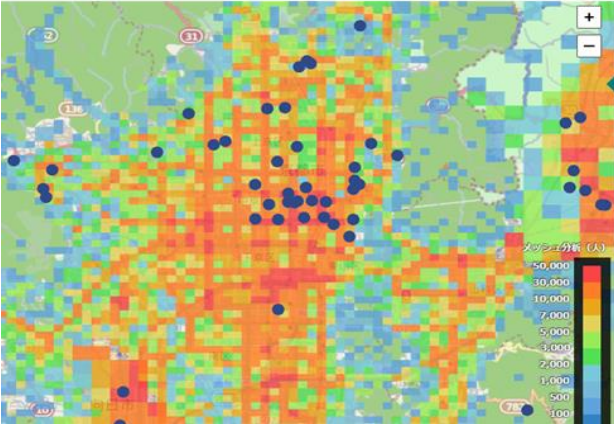
統計情報の表現手法

表現したいこと	グラフの種類																																
<p>量の大小を あらわす</p>	<p>棒グラフ</p> <table border="1"> <caption>棒グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1990年</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>1995年</td> <td>30</td> </tr> <tr> <td>2000年</td> <td>50</td> </tr> <tr> <td>2005年</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>2010年</td> <td>80</td> </tr> </tbody> </table>	年	人数	1990年	10	1995年	30	2000年	50	2005年	20	2010年	80																				
年	人数																																
1990年	10																																
1995年	30																																
2000年	50																																
2005年	20																																
2010年	80																																
<p>推移を あらわす</p>	<p>折れ線グラフ</p> <table border="1"> <caption>折れ線グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>年</th> <th>赤丸</th> <th>青角</th> <th>黄×</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2011年</td> <td>338</td> <td>289</td> <td>165</td> </tr> <tr> <td>2012年</td> <td>334</td> <td>304</td> <td>198</td> </tr> <tr> <td>2013年</td> <td>320</td> <td>270</td> <td>197</td> </tr> <tr> <td>2014年</td> <td>377</td> <td>288</td> <td>184</td> </tr> <tr> <td>2015年</td> <td>310</td> <td>300</td> <td>196</td> </tr> </tbody> </table>	年	赤丸	青角	黄×	2011年	338	289	165	2012年	334	304	198	2013年	320	270	197	2014年	377	288	184	2015年	310	300	196								
年	赤丸	青角	黄×																														
2011年	338	289	165																														
2012年	334	304	198																														
2013年	320	270	197																														
2014年	377	288	184																														
2015年	310	300	196																														
<p>構成の割合を あらわす</p>	<p>円グラフや帯グラフ</p> <table border="1"> <caption>円グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>回答</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>わからない</td> <td>4.0%</td> </tr> <tr> <td>そう思う</td> <td>20.0%</td> </tr> <tr> <td>ややそう思う</td> <td>34.0%</td> </tr> <tr> <td>あまりそう思わない</td> <td>36.0%</td> </tr> <tr> <td>そう思わない</td> <td>6.0%</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1"> <caption>帯グラフのデータ</caption> <thead> <tr> <th>凡例</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>全体 N=235</td> <td>14.5</td> <td>47.2</td> <td>31.1</td> <td>7.2</td> </tr> <tr> <td>いる N=113</td> <td>10.6</td> <td>43.4</td> <td>39.8</td> <td>6.2</td> </tr> <tr> <td>いない N=121</td> <td>17.4</td> <td>51.2</td> <td>23.1</td> <td>8.3</td> </tr> </tbody> </table>	回答	割合	わからない	4.0%	そう思う	20.0%	ややそう思う	34.0%	あまりそう思わない	36.0%	そう思わない	6.0%	凡例	A	B	C	D	全体 N=235	14.5	47.2	31.1	7.2	いる N=113	10.6	43.4	39.8	6.2	いない N=121	17.4	51.2	23.1	8.3
回答	割合																																
わからない	4.0%																																
そう思う	20.0%																																
ややそう思う	34.0%																																
あまりそう思わない	36.0%																																
そう思わない	6.0%																																
凡例	A	B	C	D																													
全体 N=235	14.5	47.2	31.1	7.2																													
いる N=113	10.6	43.4	39.8	6.2																													
いない N=121	17.4	51.2	23.1	8.3																													

例：統計情報の表現手法

表現したいこと	グラフの種類
<p>データの散らばり具合をあらわす</p>	<p>ヒストグラム</p> <p>年齢分布</p> <p>(人)</p> <p>■ 男性 ■ 女性</p>
<p>複数の指標をまとめてあらわす</p>	<p>レーダーチャート</p> <p>農林漁業</p> <p>サービス業</p> <p>複合サービス業</p> <p>医療、福祉</p> <p>教育、学習支援業</p> <p>生活関連サービス業</p> <p>宿泊業、飲食業</p> <p>学術研究、専門業</p> <p>不動産業、物品賃貸業</p> <p>金融業、保険業</p> <p>卸売小売業</p> <p>運輸郵便業</p> <p>情報通信業</p> <p>電気・ガス・熱供給</p> <p>製造業</p> <p>建設業</p> <p>鉱業採石業</p> <p>— A 特化係数 - - - B 特化係数</p>

例：統計情報の表現手法

表現したいこと	グラフの種類
<p>2つの量の関係性を示す</p>	<p>散布図</p> 
<p>地理的特性とあわせて示す</p>	<p>ヒートマップなど</p> 

まとめ

「説得力」のある
問題・特徴の提示

「説得力」のある
解決策の提示

人々の
共感・協力・行動を引き出す
↓
「困りごとの解決」
「魅力づくり」

地域分析や企画立案に活用できる主なデータ

数値(定量的な情報)

アンケート

統計

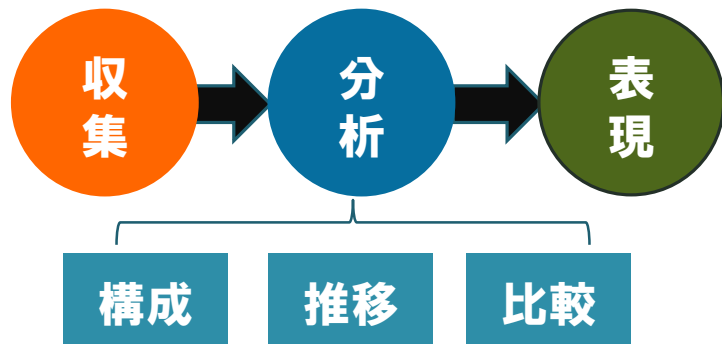


言葉・文章(定性的な情報)

文献

ヒアリング

観察・体験



- 目的を持って取り組む
- 目的に応じ、データを取捨選択し、多角的な視点で考える
- データの構造・仕組みを把握する
- 「全体像」を把握してから、「詳細分析」をする

3. RESASの紹介



RESASとは？

Regional
Economy (and)
Society
Analyzing
System



RESAS（地域経済分析システム）

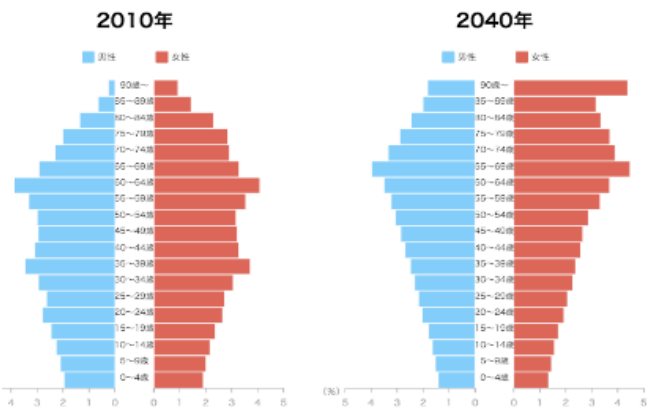


RESAS 検索または（リーサス）

- 地域経済に関わる様々なデータを収集し、かつ、わかりやすく「見える化」するシステムとして国が構築
- 平成27年4月からインターネットで公開（ブラウザは現在Google Chromeのみ）。誰でも利用可能。
- 誰もがデータを活用して地域の現状を把握し、地域の実情に合った課題解決の取組みができるよう支援するシステム

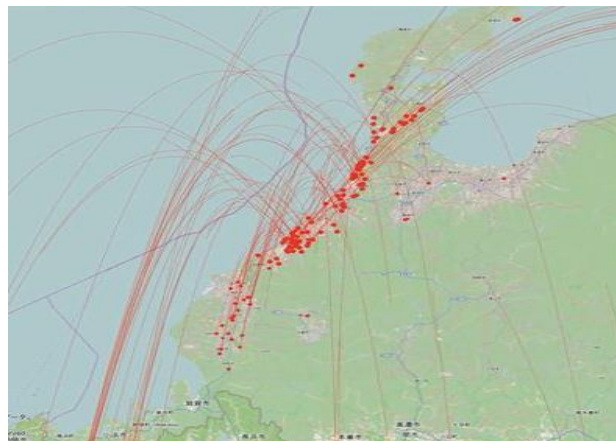
RESASでわかること（把握可能なデータ例）

人口マップ



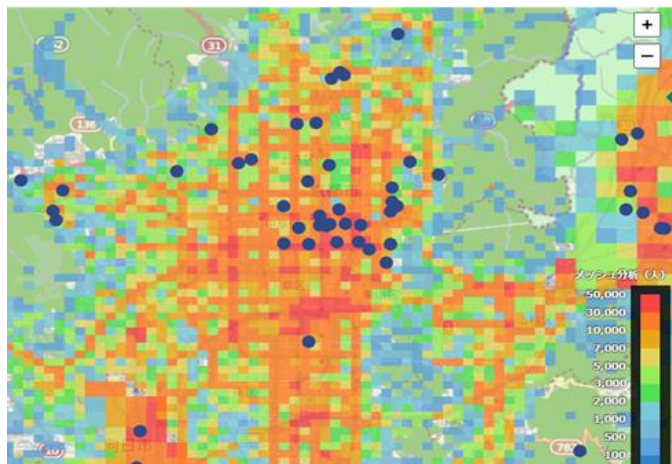
- 人口推計・推移
- 人口ピラミッド
- 出生数・死亡数
- 転入・転出 など

産業マップ



- 企業数
- 事業所数
- 雇用
- 売上付加価値額
- 稼ぐ力 など

観光マップ



- どこからどこに人が来ているか
- インバウンド観光動向 など

農林水産業マップ



- 農業部門別の販売、金額割合
- 農業経営者の年齢
- 農地の利用状況 など

地域経済分析システム(RESAS)のマップ一覧

1. 産業マップ

- 1-1. 全産業花火図(一般/限定(※))
- 1-2. 産業別花火図 (※)
- 1-3. 企業別花火図 (※)
- 1-4. 稼ぐ力分析
- 1-5. 製造業花火図
- 1-6. 製造業の地域間比較
- 1-7. 中小・小規模企業財務比較
- 1-8. 研究開発費の地域間比較
- 1-9. 特許分布図
- 1-10. 事業所立地動向
- 1-11. 輸出入花火図
- 1-12. 企業の海外取引額分析
- 1-13. 海外への企業進出動向

2. 地域経済循環マップ

- 2-1. 地域経済循環図
- 2-2. 生産分析
- 2-3. 分配分析
- 2-4. 支出分析
- 2-5. 労働生産性等の動向分析

3. 農林水産業マップ

- 3-1. 農業マップ
 - 3-1-1. 農業花火図
 - 3-1-2. 農産物販売金額
 - 3-1-3. 農地分析
 - 3-1-4. 農業者分析
- 3-2. 林業マップ
 - 3-2-1. 林業総収入
 - 3-2-2. 山林分析
 - 3-2-3. 林業者分析

3-3. 水産業マップ

- 3-3-1. 海面漁業マップ
 - 3-3-1-1. 海面漁獲物販売金額
 - 3-3-1-2. 海面漁船・養殖面積等分析
 - 3-3-1-3. 海面漁業者分析
- 3-3-2. 内水面漁業マップ
 - 3-3-2-1. 内水面漁獲物等販売金額
 - 3-3-2-2. 内水面漁船・養殖面積等分析
 - 3-3-2-3. 内水面漁業者分析

4. 観光マップ

- 4-1. From-to分析(滞在人口)
- 4-2. 滞在人口率
- 4-3. メッシュ分析(流動人口)
- 4-4. 目的地分析
- 4-5. 外国人訪問分析
- 4-6. 外国人滞在分析
- 4-7. 外国人メッシュ分析
- 4-8. 外国人入出国空港分析
- 4-9. 外国人移動相関分析
- 4-10. 外国人消費花火図
- 4-11. 外国人消費分析

5. 人口マップ

- 5-1. 人口構成
- 5-2. 人口増減
- 5-3. 人口の自然増減
(地域少子化・働き方指標(散布図))
- 5-4. 人口の社会増減
- 5-5. 将来人口推計

6. 消費マップ

- 6-1. 商業花火図
- 6-2. 商業の地域間比較
- 6-3. 消費花火図
- 6-4. From-to分析(消費動向)

7. 自治体比較マップ

- 7-1. 経済構造
 - 7-1-1. 企業数
 - 7-1-2. 事業所数
 - 7-1-3. 従業者数
 - 7-1-4. 製造品出荷額等
 - 7-1-5. 年間商品販売額
 - 7-1-6. 付加価値額
 - 7-1-7. 労働生産性
- 7-2. 企業活動
 - 7-2-1. 創業比率
 - 7-2-2. 黒字赤字企業比率
 - 7-2-3. 経営者平均年齢(※)
- 7-3. 労働環境
 - 7-3-1. 有効求人倍率
 - 7-3-2. 一人当たり賃金
- 7-4. 地方財政
 - 7-4-1. 自治体財政状況の比較
 - 7-4-2. 一人当たり地方税
 - 7-4-3. 一人当たり市町村民税法人分
 - 7-4-4. 一人当たり固定資産税

黒字：従来メニュー

赤字：28年度 第1次リリース分

※ 国および地方自治体の職員が一定の制約の下で利用可能な「限定メニュー」

RESASが扱っているデータ

企業・団体等が
有するデータ



携帯電話位置情報
カーナビ検索
POSデータ

-
-
-

国の有する
データ

国勢調査
農林業センサス
経済センサス
商業統計

-
-

■ 「地方創生☆政策アイデアコンテスト」のご案内

**RESASを活用して自らの地域を分析し、地域を元気にするよう
な政策アイデアを国民から募集**



うちにまかせる！
地元の**未来**！

**地方創生☆政策アイデア
コンテスト 2016
アイデア募集！**

新着情報

2016.8.8

教員向け研修会を全国8地域で開催します。

2016.7.29

大学生以上一般の部

「地方創生☆政策アイデアコンテスト2015」 地方創生担当大臣賞

筑波大学社会工学域 都市計測実験室

「日本の将来を描写する北海道津別町 若い世代が地域を解析する」

内閣府 地方創生☆政策アイデアコンテスト2015



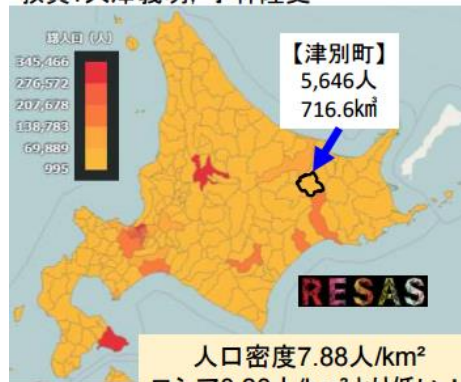
日本の将来を描写する北海道津別町 若い世代が地域を解析する

筑波大学 社会工学域 都市計測実験室

大学院生: 竹屋裕樹(津別24泊) 湊信乃介(津別27泊)

教員: 大澤義明, 小林隆史

筑波大学ラグビー部
合宿縁の地



4. RESASの基本操作



例：長野県市町村の人口推移の見方

RESAS トップページ



メニューをクリック

②人口構成をクリック

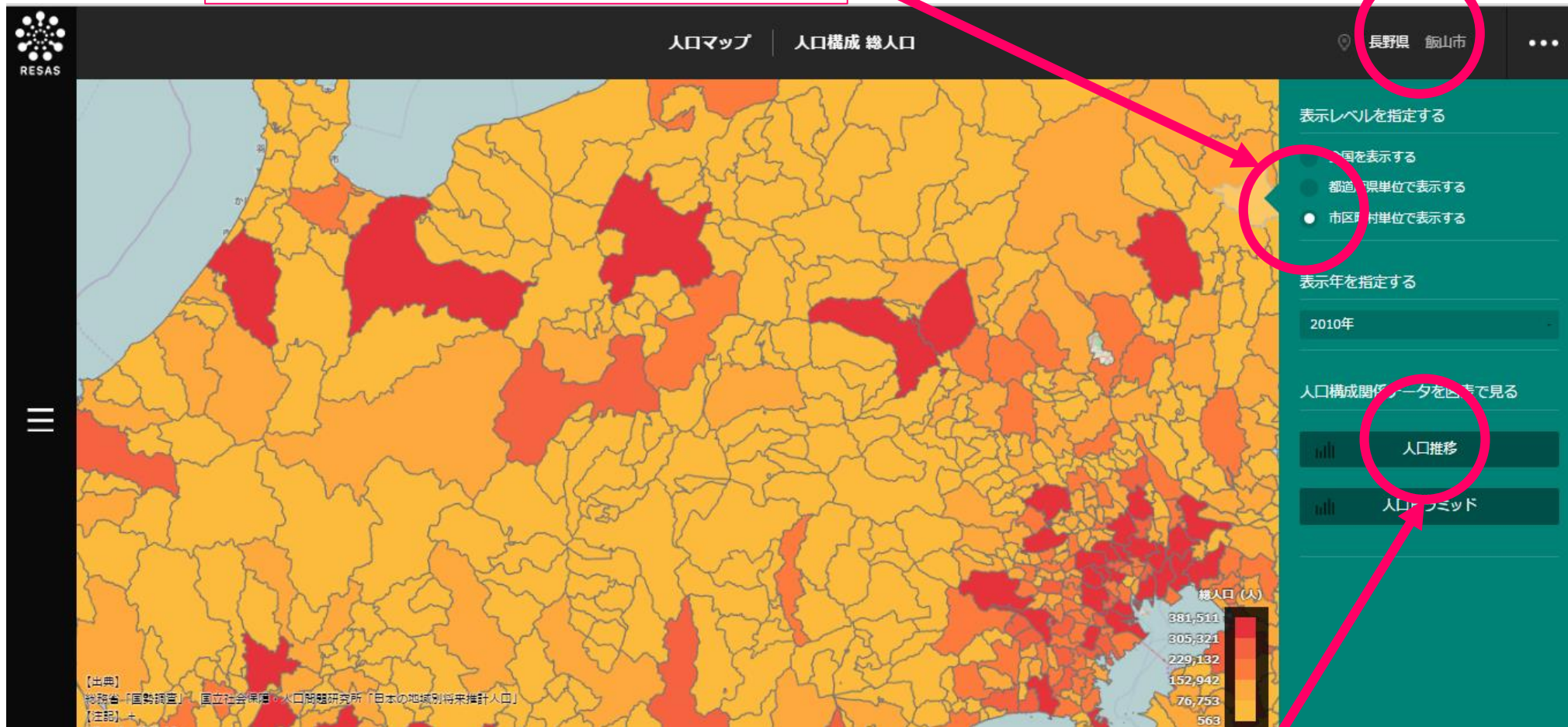


①人口マップをクリック

注意:マップには、都道府県単位だけのものもある。

②長野県と該当する市町村を選ぶ

①「市町村単位で表示する」を選択

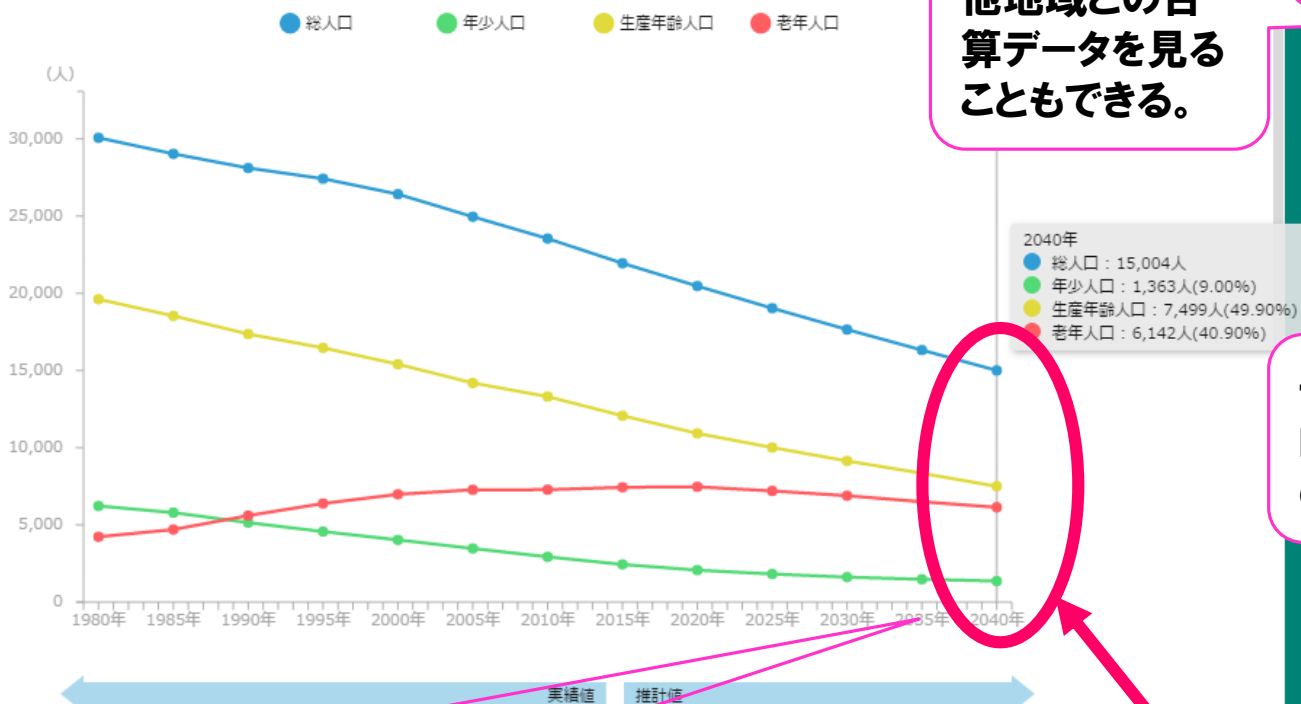


③人口推移をクリック



人口推移

長野県飯山市



他地域との合算データを見ることもできる。

データをダウンロードできるものがある

グラフをワード等、他の資料に貼り付けたいときにはプリントスクリーン(「FN」と「ENDPRST」)で保存して貼り付ける。

カーソルを合わせると数値が現れる

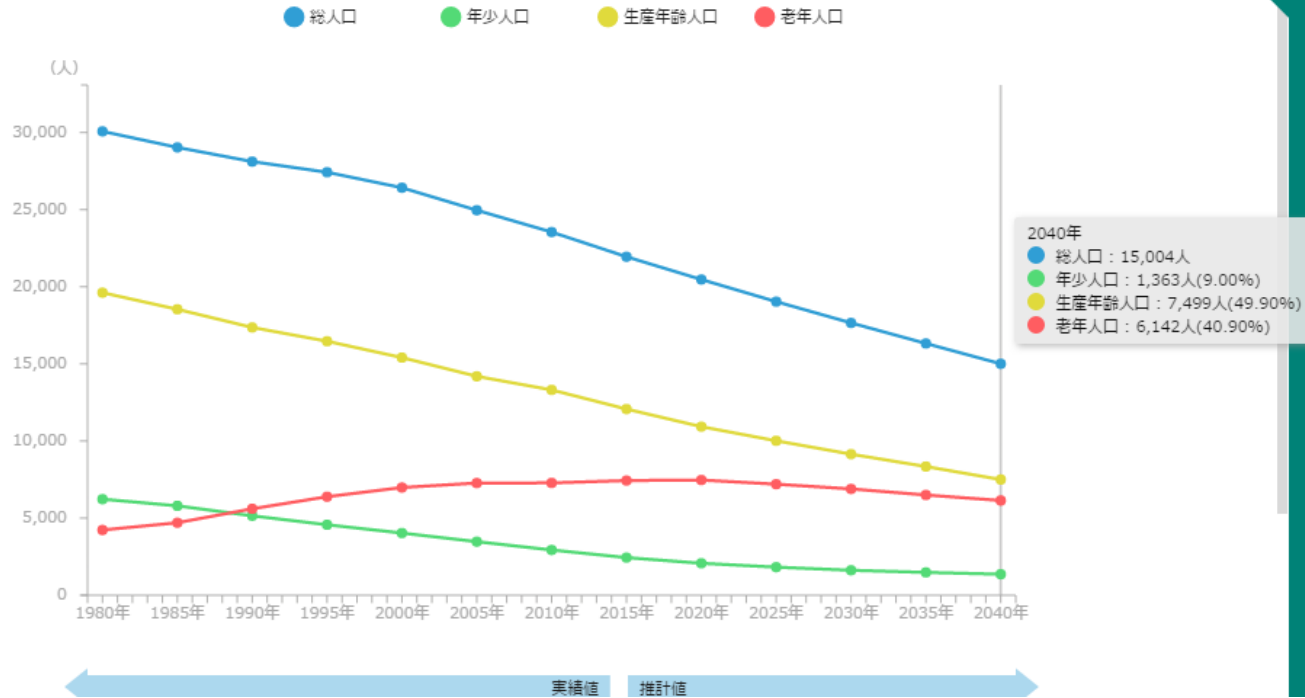
【出典】RESAS 人口マップー人口構成／総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値。
 総人口については、年齢不詳は除いている。



戻るときは×印を押す

人口推移

長野県飯山市



他の自治体と一体的に見る

合算地域を追加する

長野県

長野市

+ 追加

↓ データをダウンロード

5. RESASを使ってみよう

まちについて調べる－人口分析編

塩尻市の人口分析

目的：塩尻市の人口の特徴を把握し、人口増減の要因を考えよう

①調べるデータ（個人ワーク）30分

1)人口推移と人口構成を見てみよう！

- ・総人口、年齢3区分別人口の推移【RESAS:人口マップ－人口構成】
- ・人口ピラミッド【RESAS:人口マップ－人口構成】

2)人口が変動する要因を見てみよう！

- ・自然増減と社会増減の推移【RESAS:人口マップ－人口増減】
- ・合計特殊出生率【RESAS:人口マップ－人口増減】
- ・転入・転出内訳【RESAS:人口マップ－人口の社会増減】
- ・年齢階級別移動数【RESAS:人口マップ－人口の社会増減】

②グループワーク 10分

気づいたことをまとめよう

目的：塩尻市の人口の特徴を把握し、人口増減の要因を考えよう

	塩尻市	出身地	違いは？
総人口の推移			
3区分年齢人口	年少人口： 生産年齢人口 老年人口：	年少人口： 生産年齢人口 老年人口：	
人口ピラミッド			

目的：塩尻市の人口の特徴を把握し、人口増減の要因を考えよう

	塩尻市	出身地	違いは？
自然増減と 社会増減の推移			
合計特殊出生率 <small>15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生の間に生むとしたときの子どもの数に相当する</small>			
転入・転出先の 内訳			
年齢階級別移動数			

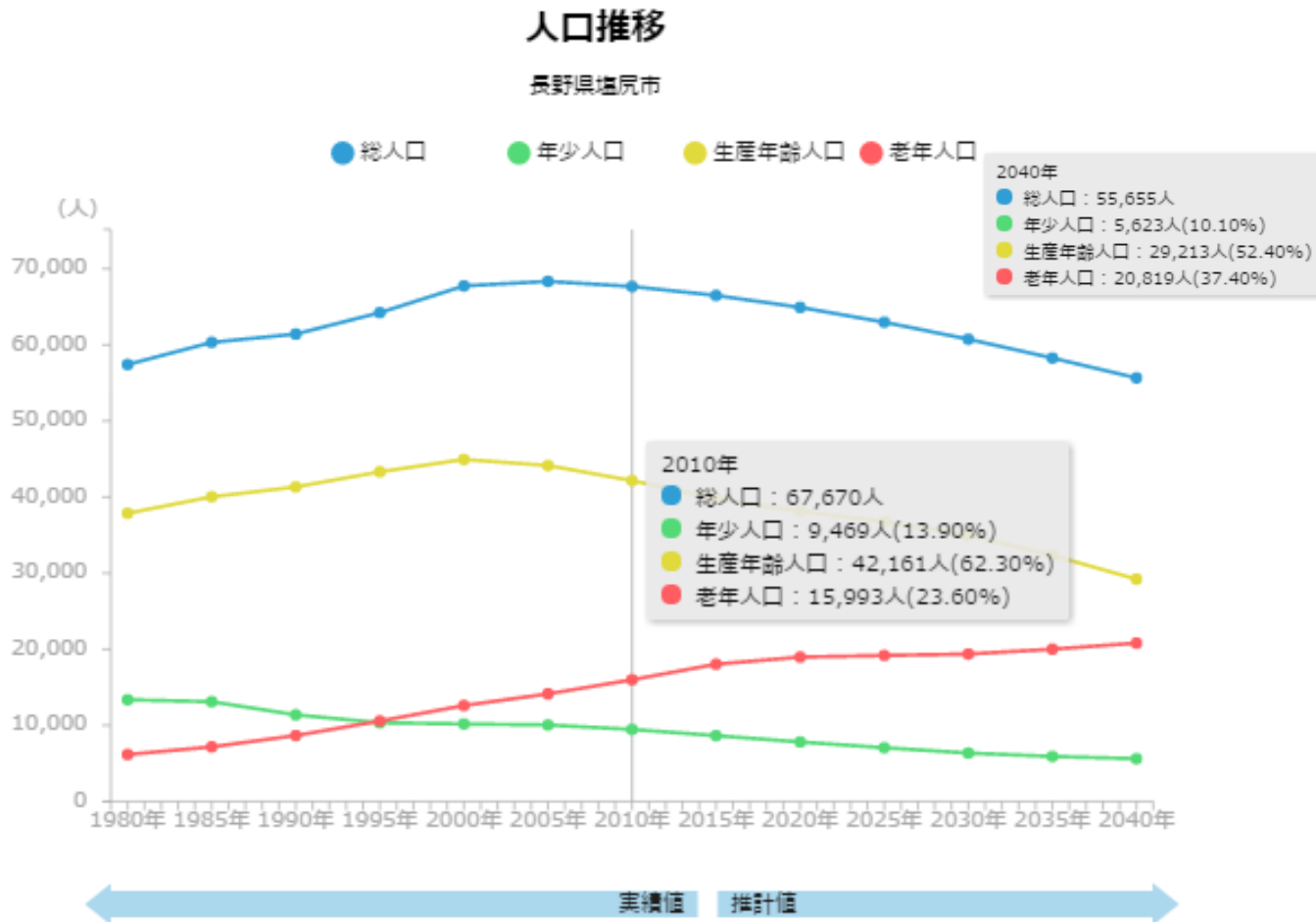
Q. 塩尻市の人口の特徴をまとめる

人口全体の特徴
(総人口、年齢3区分人口)

自然動態の特徴

社会動態の特徴

総人口、年齢3区分別人口の推移【RESAS:人口マッパー-人口構成】



総人口

2010年67,670人



2040年55,655人

17.8%減

★増減率の出し方

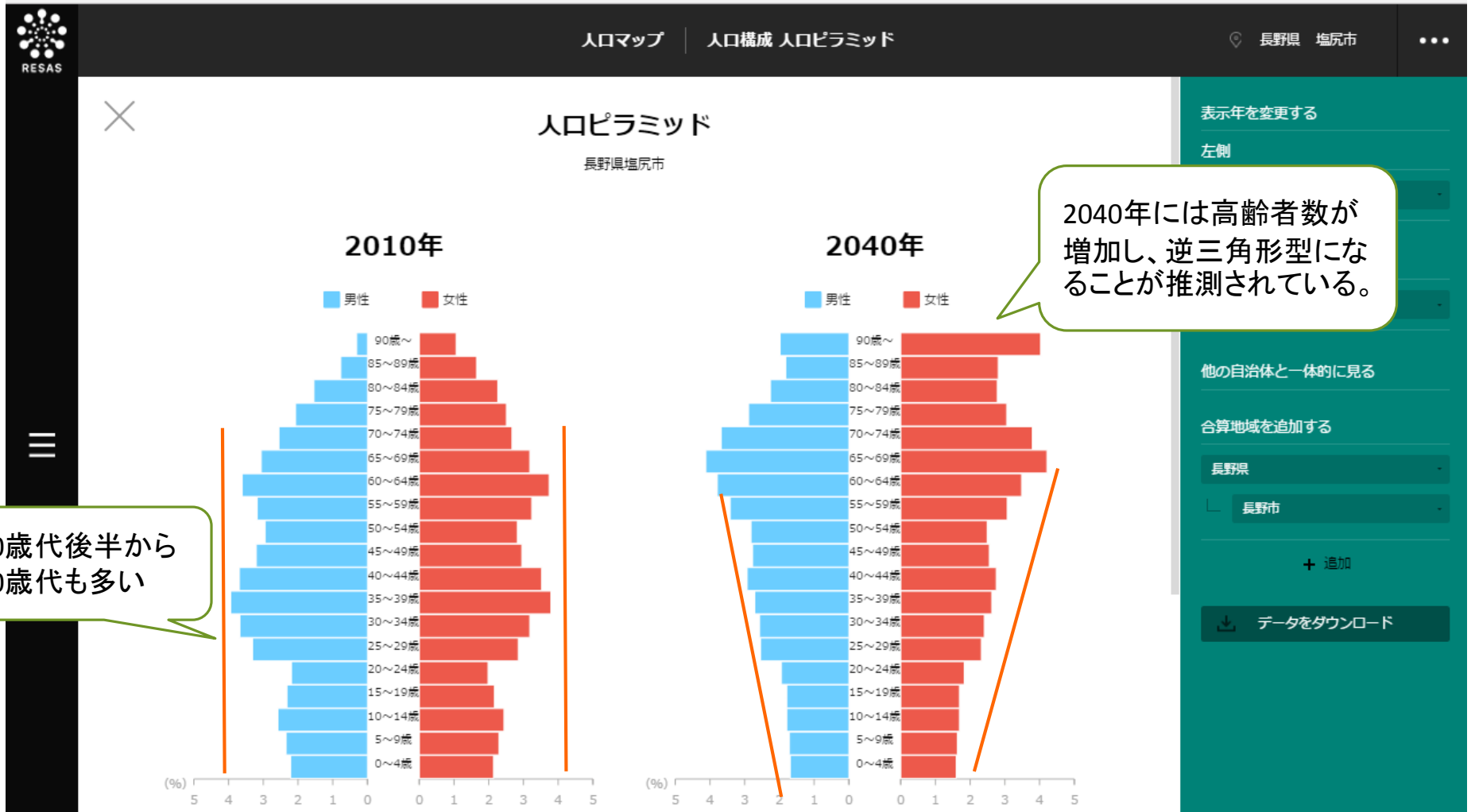
$$= (2040年 - 2010年) \div 2010年 \times 100$$

【出典】RESAS 人口マッパー人口構成／総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値。

総人口については、年齢不詳は除いている。

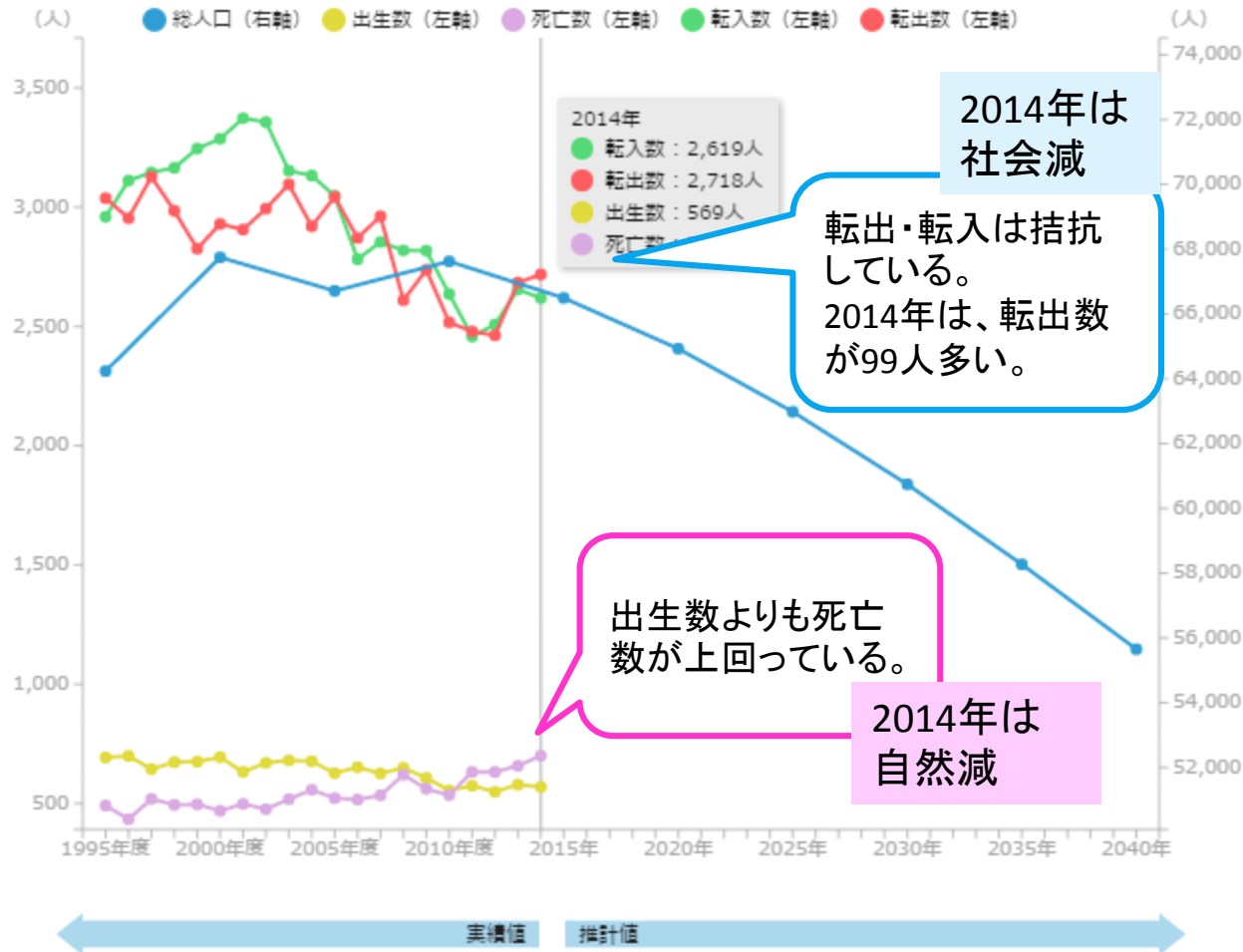
人口ピラミッド【RESAS:人口マップー人口構成】



【出典】RESAS 人口マップー人口構成／総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」
 【注記】2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値。
 総人口については、年齢不詳は除いている。

自然増減と社会増減の推移【RESAS:人口マップー人口増減】

出生数・死亡数 / 転入数・転出数



社会増減
 地域の外に住民が引っ越していったり（転出数）、よその地域から引っ越してきたりすること（転入数）による人口の増減のこと。出て行く人が多い時は「社会減」、入ってくる人が多いときは「社会増」となる。

自然増減
 出生と死亡による人口の増減をいう。出生数が死亡数を上まわれば、「自然増」、出生数が死亡数を下回ると「自然減」となる。

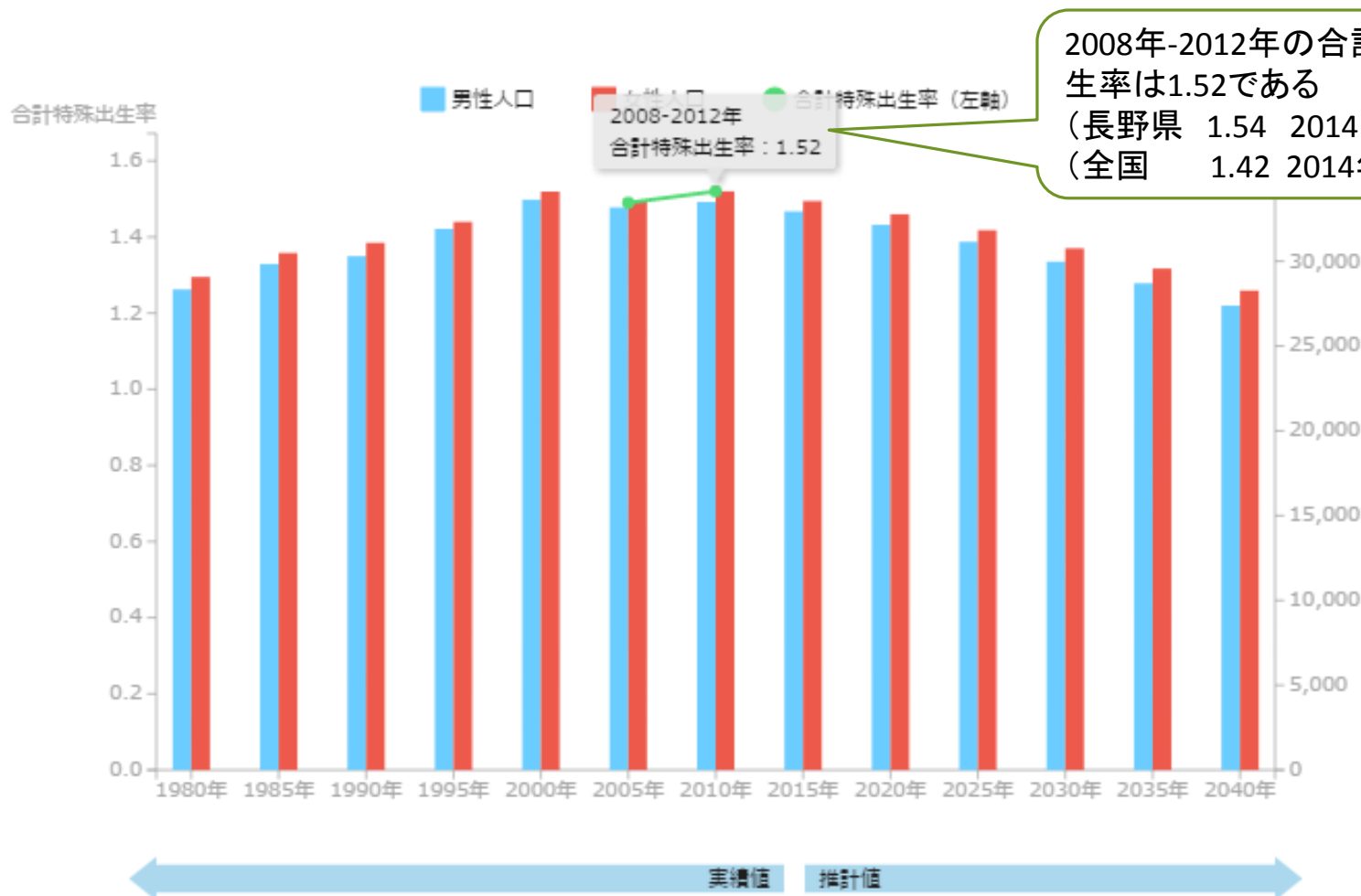
【出典】RESAS 人口マップー人口増減／総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」、総務省「住民基本台帳に基づく人口、人口動態及び世帯数に関する調査」

【注記】総人口のデータは、2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値。総人口については、年齢不詳は除いている。2012年までは年度データ、2013年以降は年次データ。

合計特殊出生率【RESAS:人口マッパー-人口増減】

長野県塩尻市 合計特殊出生率と人口推移

下限：なし～上限：なし



2008年-2012年の合計特殊出生率は1.52である
 (長野県 1.54 2014年)
 (全国 1.42 2014年)

合計特殊出生率
 15～49歳までの女性の年齢別出生率を合計したもので、一人の女性がその年齢別出生率で一生涯の間に生むとしたときの子ども数に相当する。

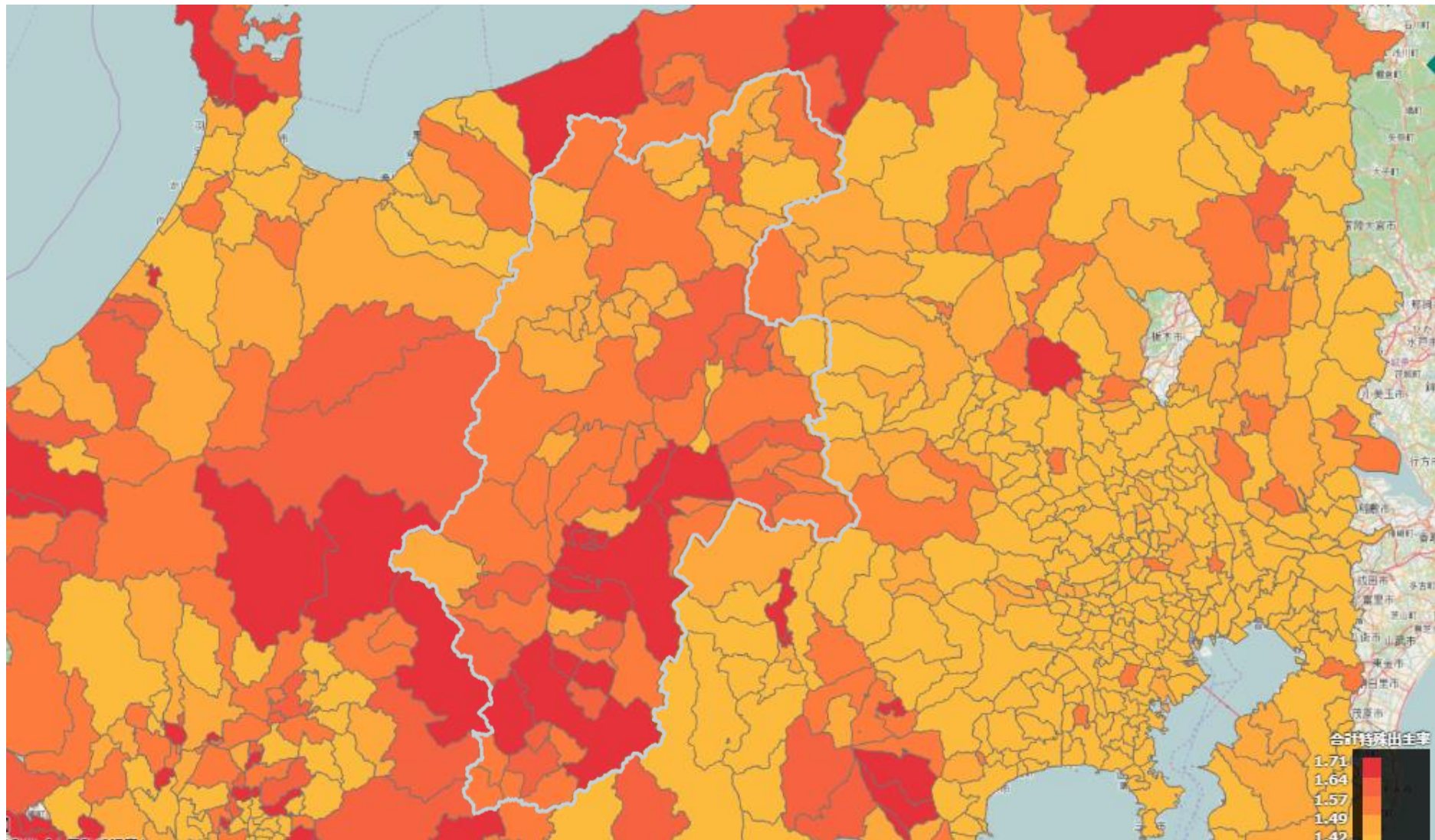
長野県・塩尻市

【出典】RESAS 人口マッパー-人口の自然増減／総務省「国勢調査」、厚生労働省「人口動態調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」

【注記】2010年までは「国勢調査」のデータに基づく実績値、2015年以降は「国立社会保障・人口問題研究所」のデータに基づく推計値

全国【出典】厚生労働省「人口動態調査」(2014年)

【参考】長野県の合計特殊出生率（2008-2012年）



【出典】RESAS 人口マップー人口の自然増減／厚生労働省「人口動態調査」

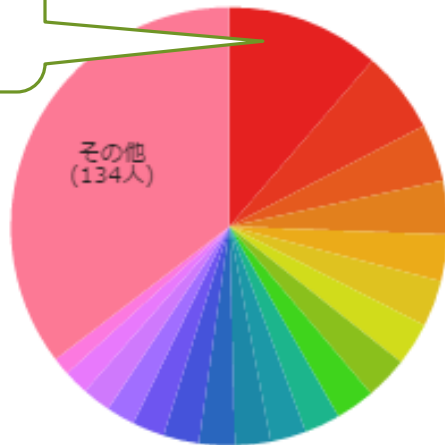
転入・転出内訳【RESAS:人口マッパー-人口の社会増減】

長野県塩尻市 From-to分析 (定住人口) 2014年

転入超過数内訳

総数

諏訪市、茅野市からの
転入超過数が多い。

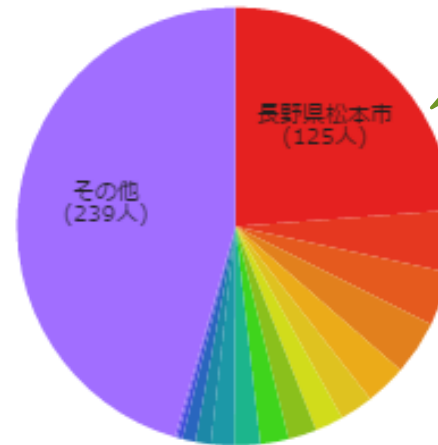


- 1位 長野県諏訪市 43人 (11.3%)
- 2位 長野県茅野市 23人 (6.1%)
- 3位 長野県木曾町 16人 (4.2%)
- 4位 長野県岡谷市 15人 (4%)
- 5位 長野県辰野町 13人 (3.4%)
- 6位 長野県須坂市 13人 (3.4%)
- 7位 長野県朝日村 12人 (3.2%)
- 8位 長野県上松町 12人 (3.2%)
- 9位 長野県千曲市 11人 (2.9%)
- 10位 長野県東御市 10人 (2.6%)

転出超過数内訳

総数

松本市への転出超
過数が多い。



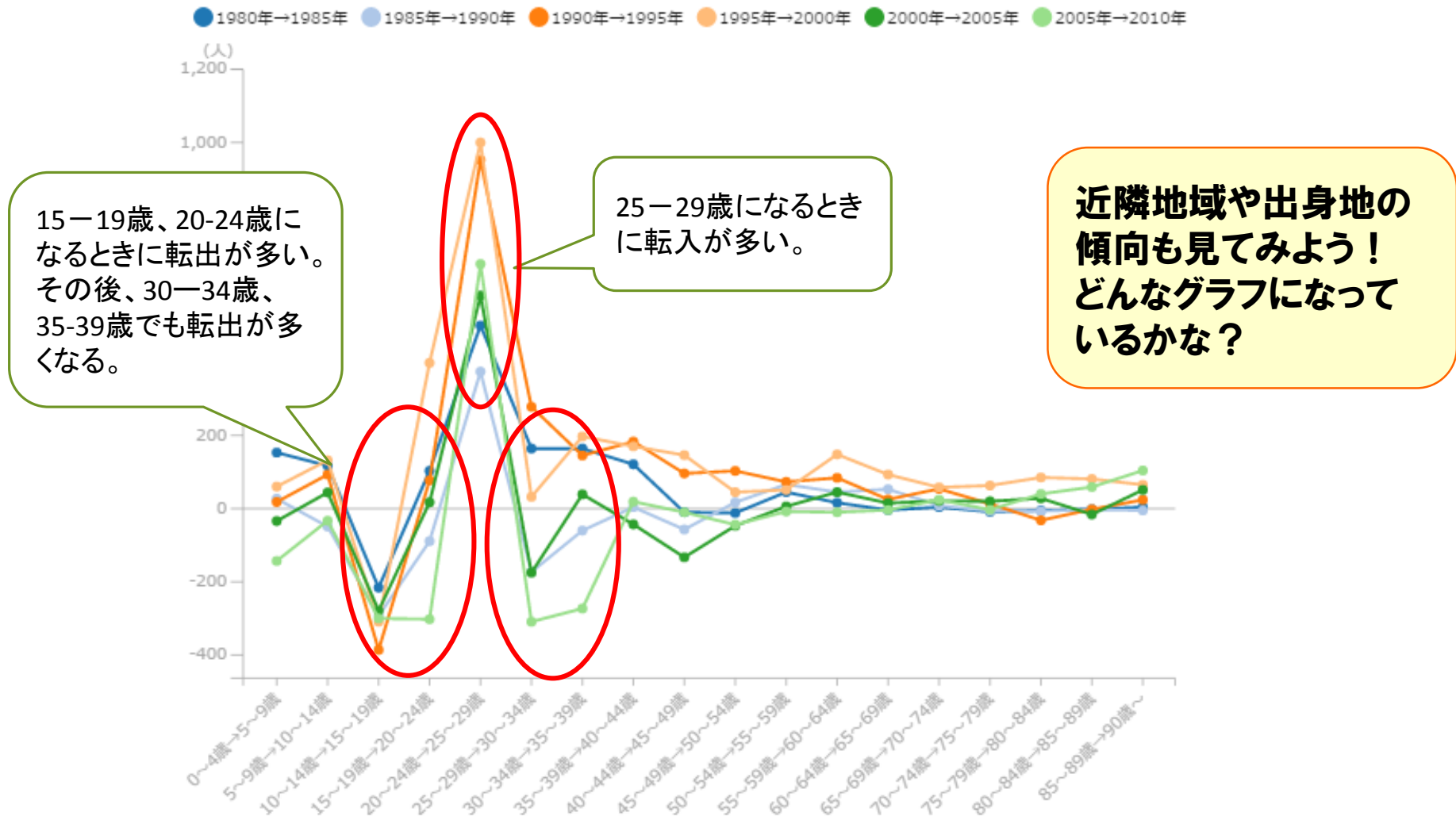
- 1位 長野県松本市 125人 (23.8%)
- 2位 長野県南箕輪村 24人 (4.6%)
- 3位 長野県山形村 21人 (4%)
- 4位 長野県長野市 21人 (4%)
- 5位 山梨県甲府市 16人 (3%)
- 6位 長野県松川村 13人 (2.5%)
- 7位 長野県小諸市 11人 (2.1%)
- 8位 東京都練馬区 11人 (2.1%)
- 9位 東京都大田区 11人 (2.1%)
- 10位 東京都板橋区 10人 (1.9%)

【出典】RESAS 人口マッパー-人口の社会増減／総務省「住民基本台帳人口移動報告」

【注記】熊本市については、2012年4月1日に政令指定都市となったため、2012年のデータにおける熊本市に属する区のデータについては、4月から12月までの9か月分となる

年齢階級別移動数【RESAS:人口マップー人口の社会増減】

長野県塩尻市 年齢階級別純移動数の時系列分析



【出典】RESAS 人口マップー人口の社会増減／総務省「国勢調査」、厚生労働省「都道府県別生命表」に基づきまち・ひと・しごと創生本部作成

塩尻市 人口分析のまとめ

●総人口、3区分年齢人口

- 総人口は2005年をピークに緩やかな減少に転じている。
- 今後も人口減少は進み、2040年には総人口は55,655人(2010年比 17.8%)となると推計されている。
- 年齢3区分別人口で見ると、1995年に老年人口と年少人口の数が逆転した。老年人口は増え続け、年少人口は減少し続けている。
- 将来推計でも、年少人口、生産年齢人口ともに減少するが、老年人口は増加の一途をたどり、2040年には高齢化率は37.4%になると推測されている。
- 2040年のピラミッドでは、逆三角型になっており、老年人口が多くなる。
⇒人口減少、少子化、高齢化が進む

●自然増減

- 2010年に死亡数が出生数を上回っている
- 出生数は徐々に減少している。
- 合計特殊出生率は1.52。長野県(1.54)とほぼ同じ数値である。

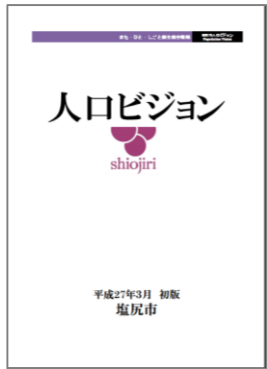
⇒女性人口の減少等による出生数の減少、高齢化による死亡数の増加が見込まれ、自然減は進む

●社会増減

- 2000年から2005年は転入超過であったが、以降転入転出が拮抗する時期が続き、2014年には転出超過となっている。
- 15-19歳、20歳代前半なるときに転出し、25-29歳になるときの転入が多い。その後、30歳代で転出が多くなる。

⇒20歳代後半を呼び込む都市としての潜在力があり、活かしていくことが必要

人口減少社会に向けた塩尻市の対策



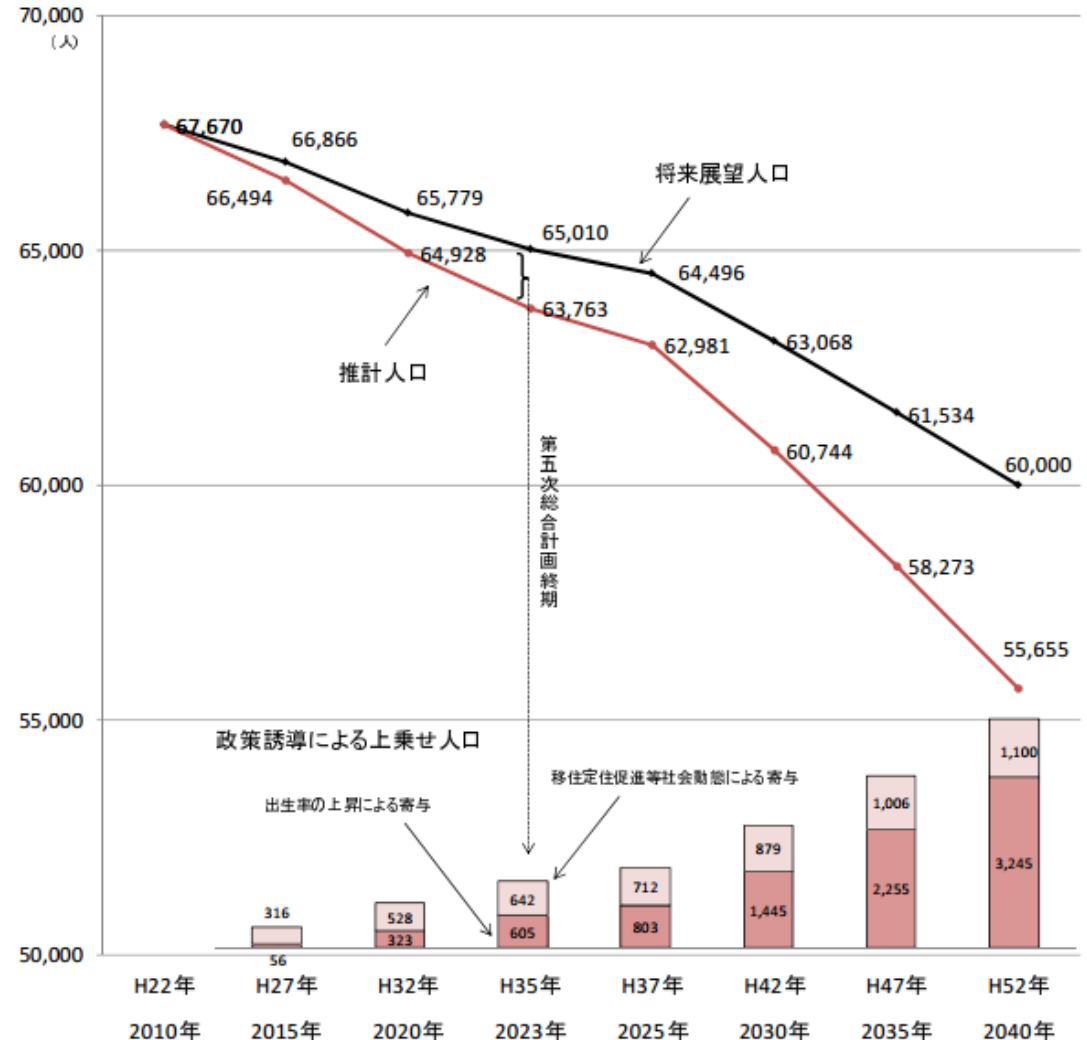
塩尻市人口ビジョンでは、合計特殊出生率の上昇と移住定住促進等による生産年齢層の移動率補正により、2040年に60,000人という目標を掲げている。



まち・ひと・しごと創生総合戦略では、2040年に60,000人という目標を目指して、以下の5つの柱にそった取組みを行うことを掲げている。

- 産業振興による活力ある地域創造戦略
- 塩尻ブランドを活用した選ばれる地域創造戦略
- 子育て世代に選ばれる地域創造戦略
- 確かな暮らしを営む地域創造戦略 I
- 確かな暮らしを営む地域創造戦略 II

将来展望人口と推計人口の比較



【演習】まちについて調べる－産業分析編

塩尻市の産業分析

塩尻市で従業者数、付加価値額が多い産業をさがす！
その産業は県内でどうなっているのかな？

1) 塩尻市の産業構造を見てみよう！

- ・事業所数【RESAS: 産業マップー全産業花火図】
- ・従業者数【RESAS: 産業マップー全産業花火図】
- ・従業者数産業別割合【RESAS: 産業マップー全産業花火図】

2) 塩尻市の製造業の状況を見てみよう！

- ・製造品出荷額等の推移【RESAS: 自治体比較マップー製造品出荷額等】
- ・付加価値額の産業別割合【RESAS: 産業マップー全産業花火図】
- ・特化係数による分析【RESAS: 産業マップー稼ぐ力】

事業所数【RESAS:産業マップー全産業花火図】

事業所数 : 事業所単位

卸売業、小売業の事業所数が最も多い。
次いで、製造業が多い。

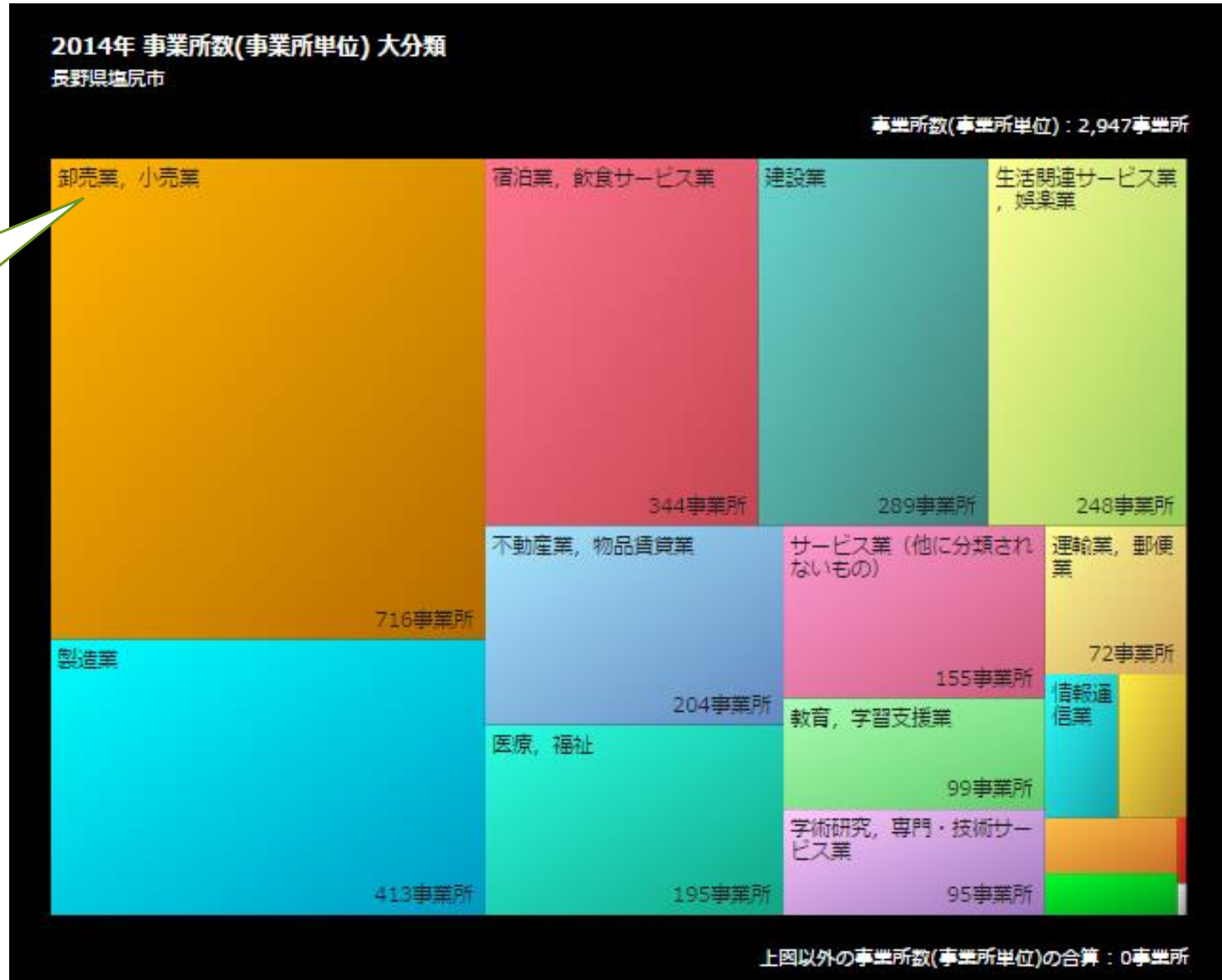
企業単位：
事業・活動を行う法人（外国の会社を除く。）及び個人経営の事業所。
※本社の所在地にまとめて計上

事業所単位：
経済活動が行われている場所ごとの単位で、原則として次の要件を備えているもの。

- 1) 一定の場所を占めて、単一も経営主体のもとで経済活動が行われていること
- 2) 従業者と設備を有して、物の生産や販売、サービスの提供が継続的に行われていること

【出典】RESAS 産業マップー全産業花火図／
総務省「経済センサスー基礎調査」再編加工、
総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

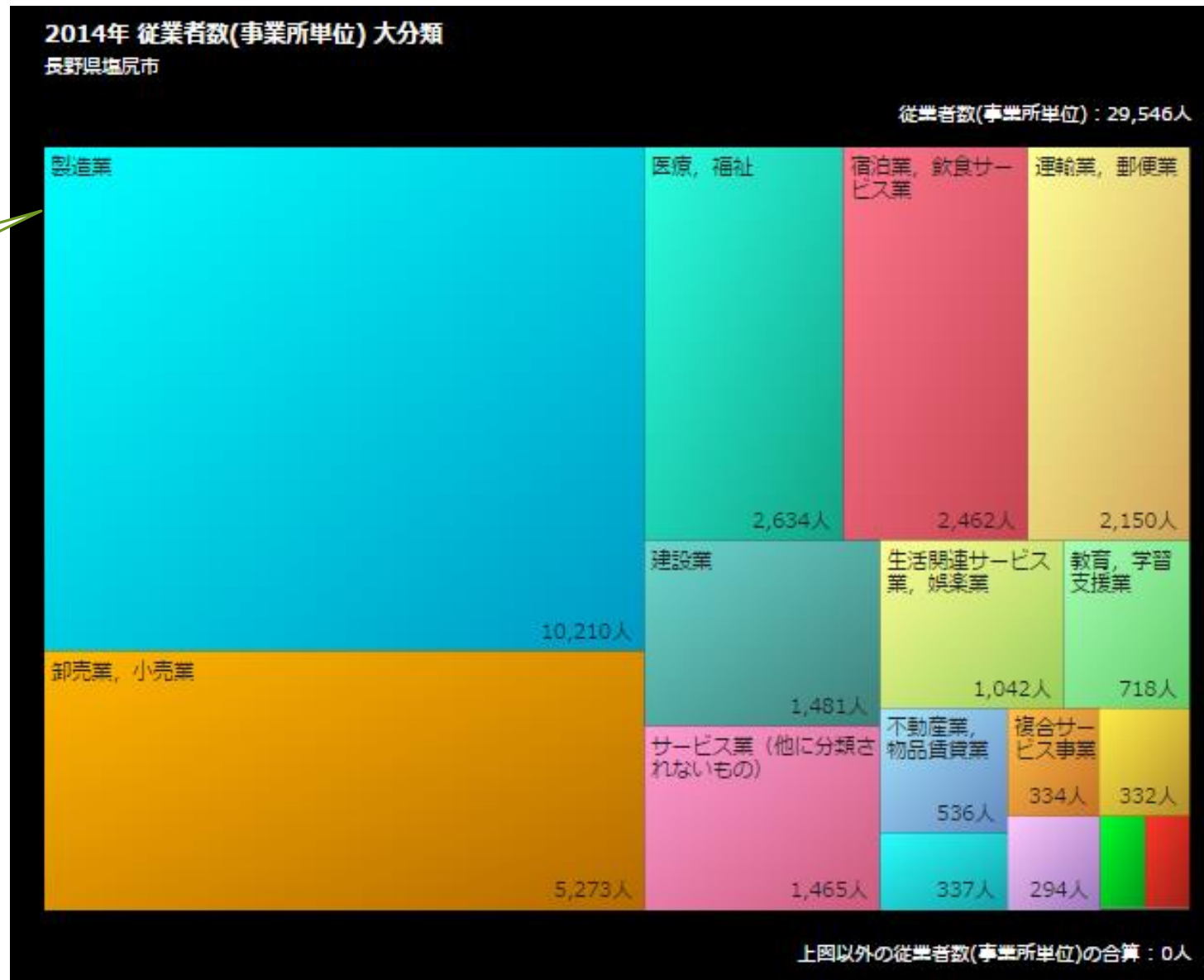
【注記】本社で働く事業所の従業者も事業所で計上。



従業者数【RESAS:産業マップー全産業花火図】

従業者数 ：事業所単位

従業者数でみると、
製造業が最も多く、次いで卸売業・小売業が多い。



【出典】RESAS 産業マップー全産業花火図／
総務省「経済センサスー基礎調査」再編加工、
総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

【注記】本社で働く事業所の従業者も事業所で計上。

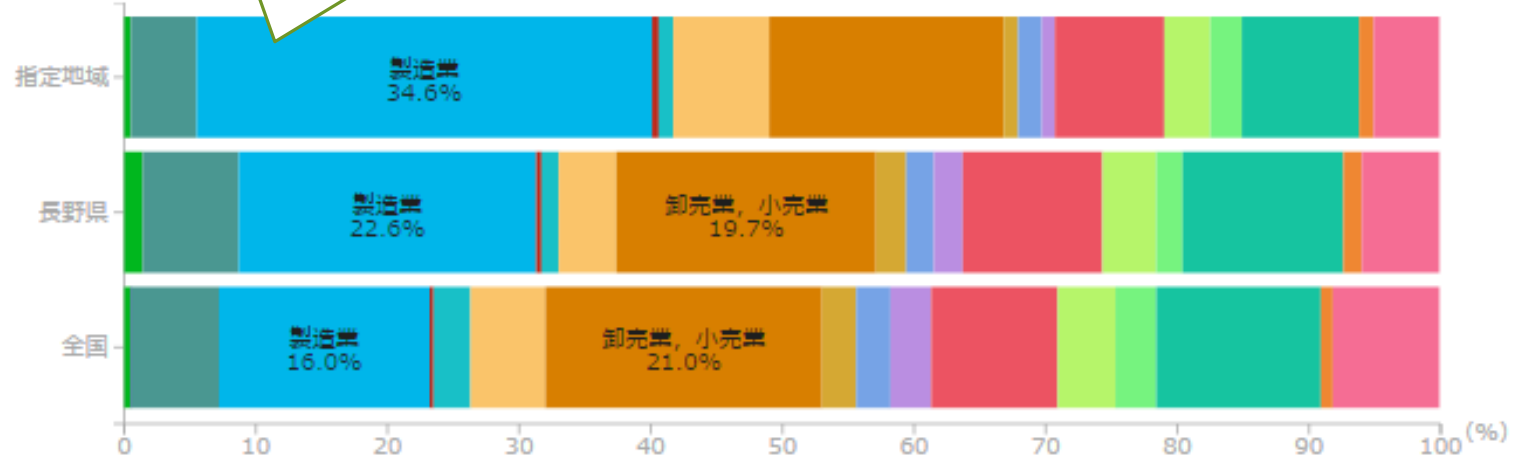
従業者数産業別割合【RESAS:産業マップー全産業花火図】

従事者数 ：事業所単位

塩尻市は、長野県、全国と比べても、製造業の比率が高い。

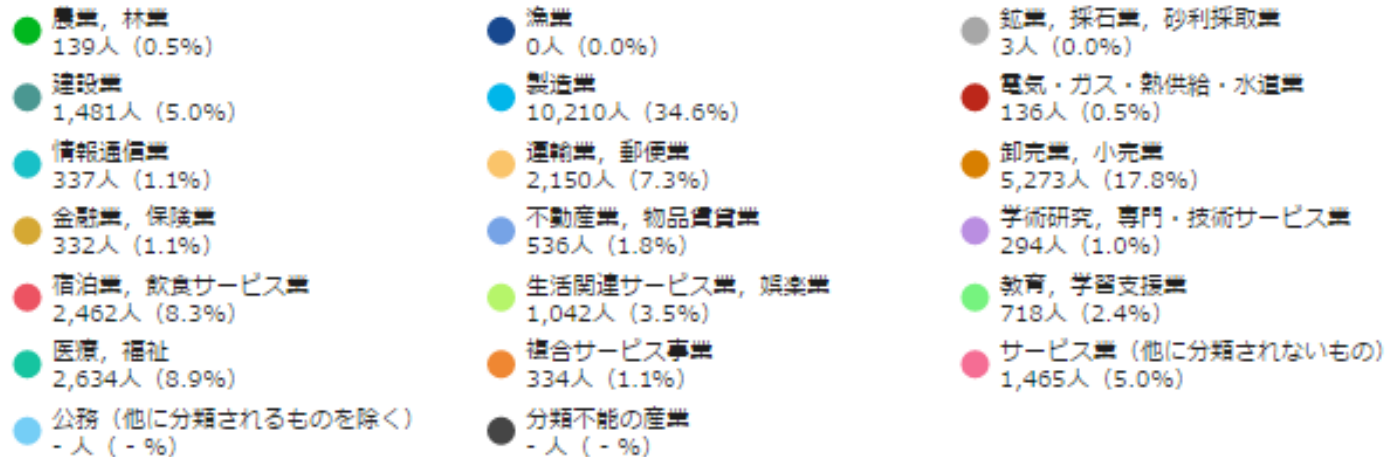
従業者数(事業所単位) 2014年

指定地域：長野県塩尻市



【比較】

- ・塩尻市
- ・長野県
- ・全国



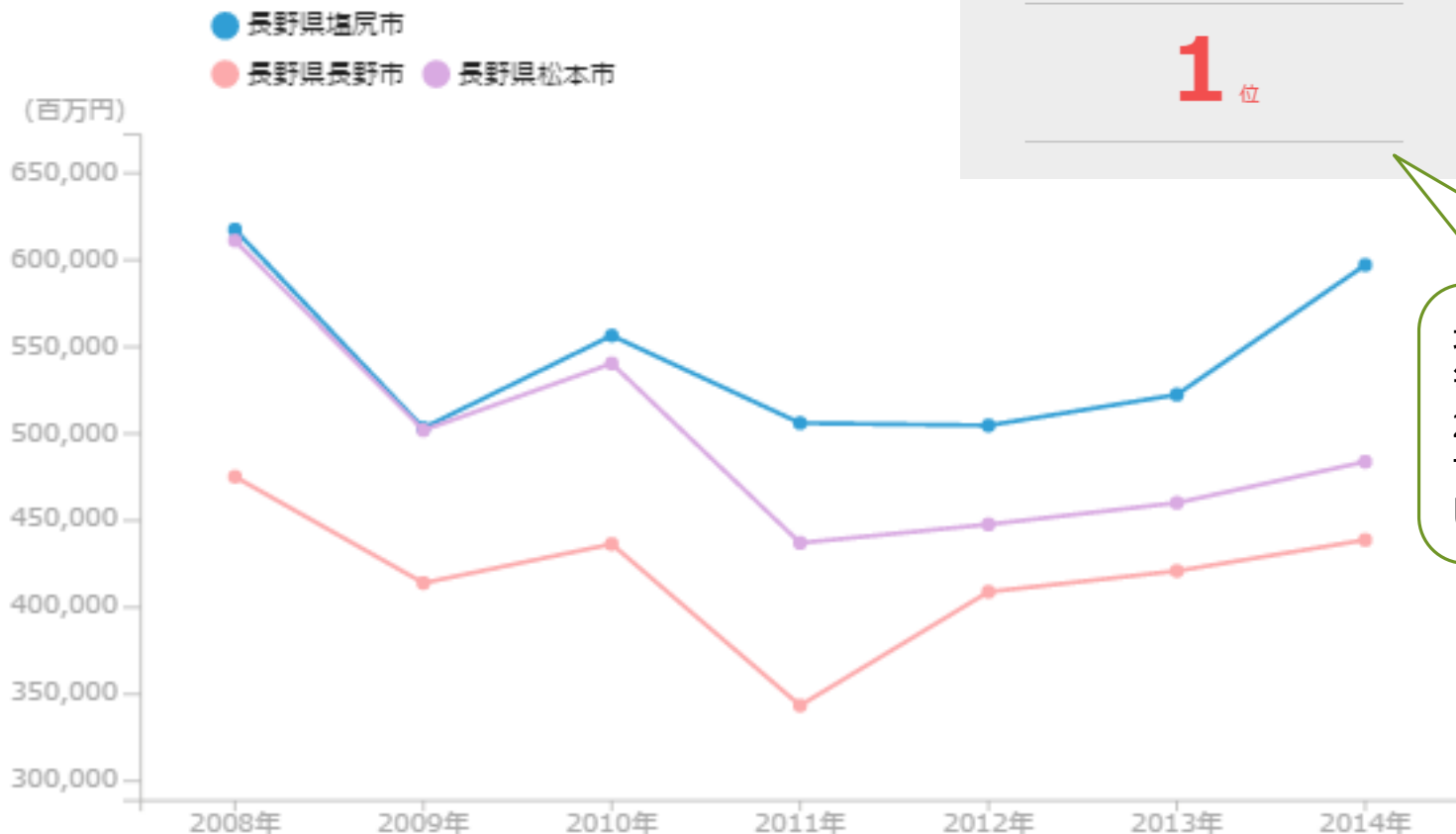
【出典】RESAS 産業マップー全産業花火図／総務省「経済センサスー基礎調査」再編加工、総務省・経済産業省「経済センサスー活動調査」再編加工

【注記】本社で働く事業所の従業者も事業所で計上。

製造品出荷額等の推移【RESAS:自治体比較マップー製造品出荷額等】

製造品出荷額等

産業：製造業 > すべての中分類



製造品出荷額等順位

長野県塩尻市

2014年

都道府県内

1位

全国

114位

塩尻市の製造品出荷額等は県内トップ。2010年から長野市や松本市よりも高い水準で推移している。

付加価値額の産業別割合【RESAS:産業マップー全産業花火図】

付加価値額でも、長野県、全国と比べて、塩尻市における製造業の比率は高い。

付加価値額(企業単位) 2012年

指定地域：長野県塩尻市

付加価値額とは

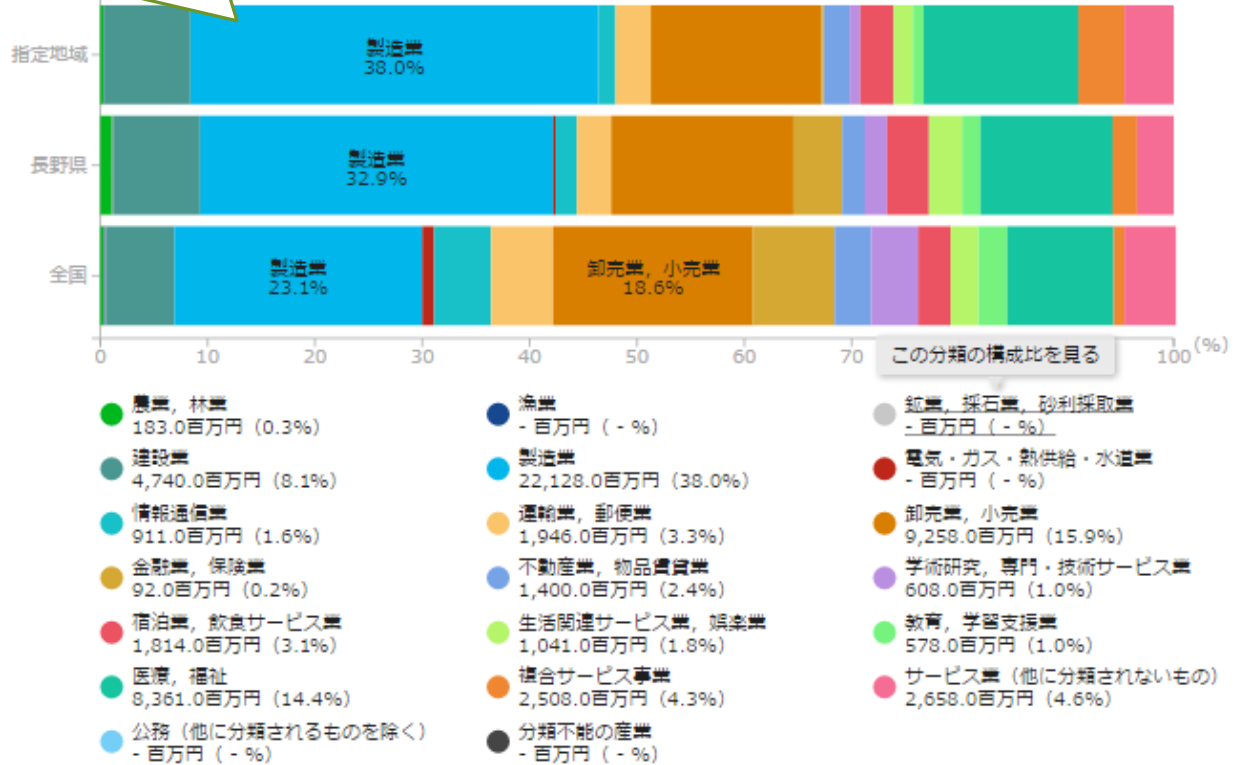
付加価値額＝売上高－費用総額＋
給与総額＋租税公課

※経済センサスの場合

特化係数とは

ある地域内の産業のシェアや生産性が全国と比べてどれくらい高いかを表す指標。

1.0を超えていれば、当該産業が、全国と比べて、産業に占める割合が高いとされる。



特化係数の算出の仕方

塩尻市の産業の付加価値額における製造業の割合
38.0%

÷

全国の産業の付加価値額における製造業の割合
23.1%

=

1.65

特化係数による分析【RESAS:産業マップー稼ぐ力】

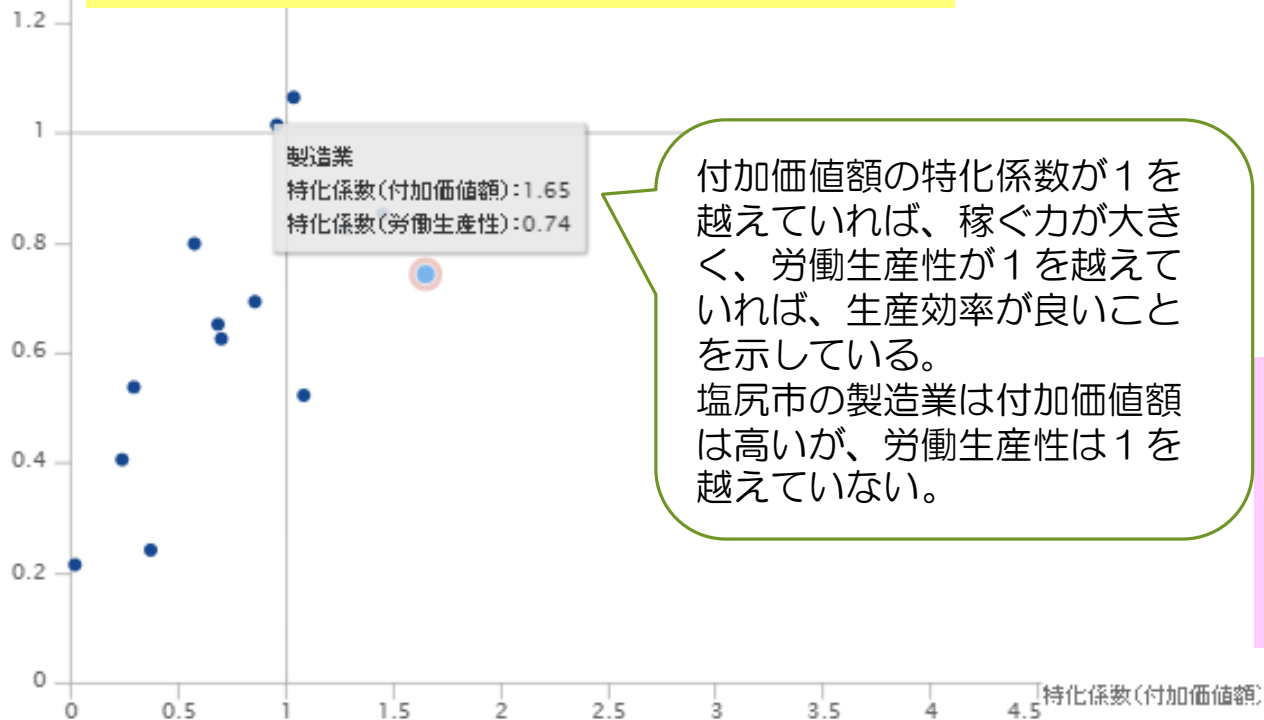
特化係数（付加価値額） x 特化係数（労働生産性）

2012年

指定地域：長野県塩尻市

特化係数（労働生産性）

労働生産性とは
付加価値額（企業単位） ÷ 従業者数（企業単位）



付加価値額とは
付加価値額＝売上高－
費用総額＋給与総額＋
租税公課

※経済センサスの場合

【演習】まちについて調べる－農業分析編

塩尻市の農業分析

1) 塩尻市の農業の状況を見てみよう！

- ・農業部門別販売金額の状況

【RESAS: 農林水産業マップー農業花火図】

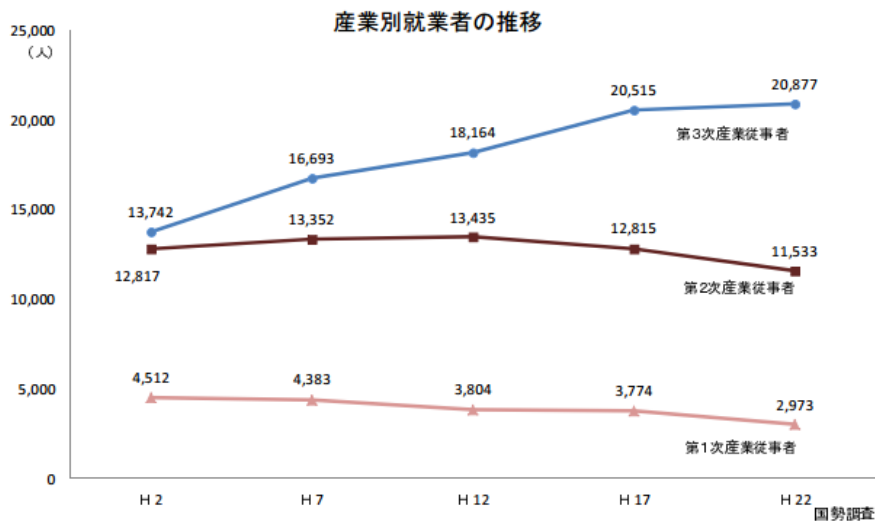
- ・農産物販売金額の比較

【RESAS: 農林水産業マップー農産物販売金額】

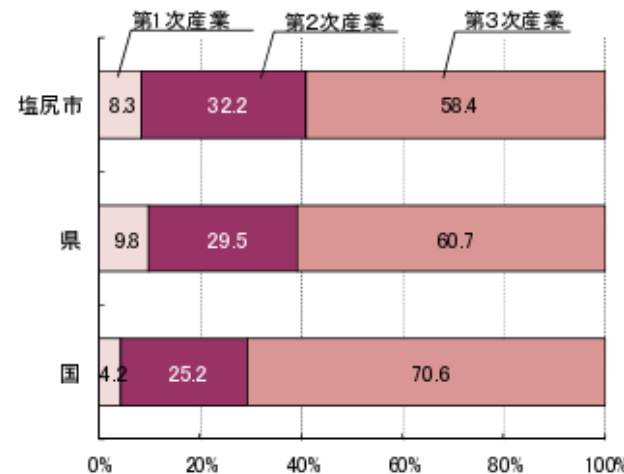
- ・耕作放棄地率の比較

【RESAS: 農林水産業マップー耕作放棄地率】

塩尻市の産業別就業者数



産業別就業者構成比



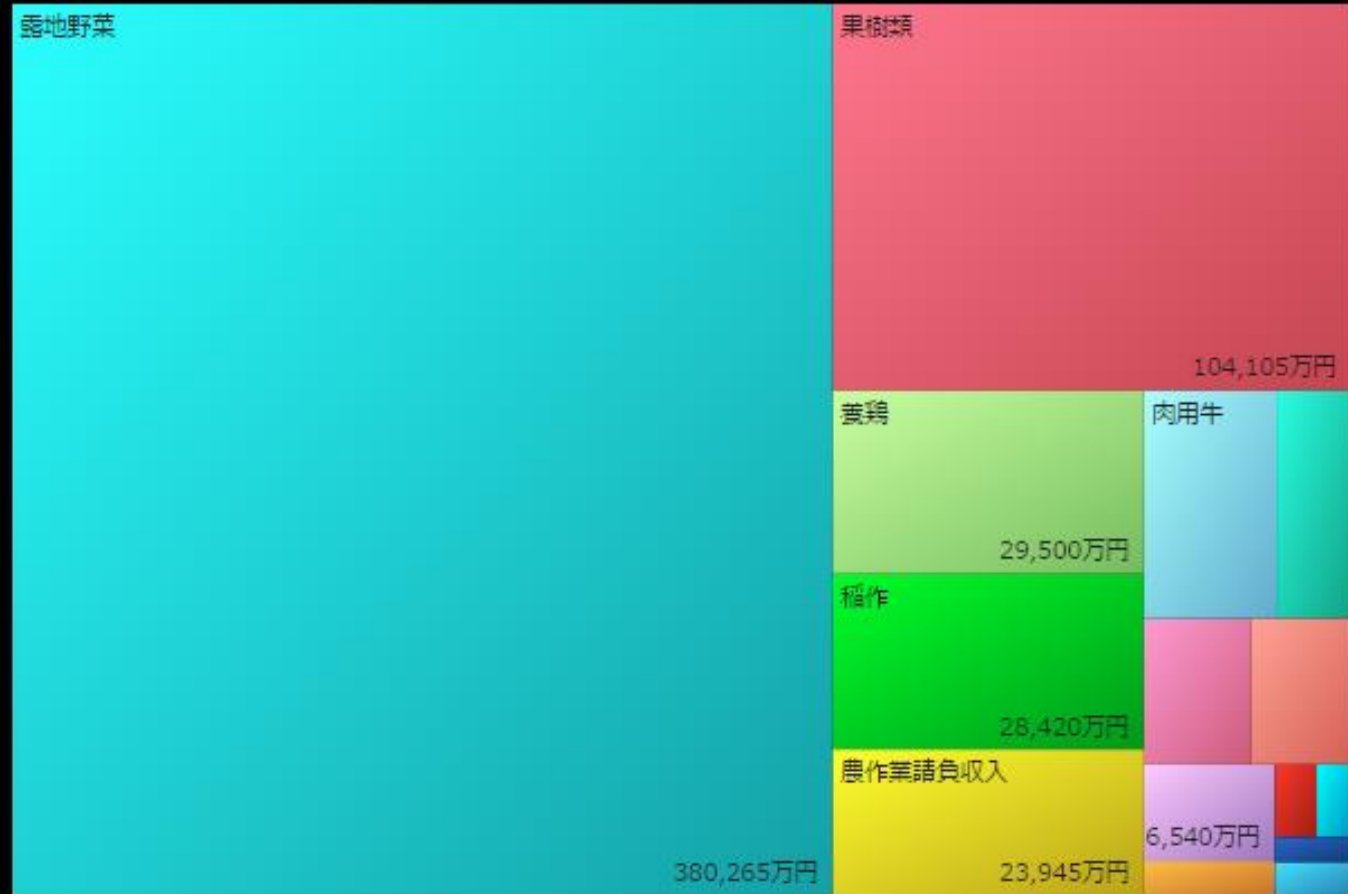
【出典】塩尻市人口ビジョン / 総務省統計局「国勢調査」(平成22年)

農業部門別販売金額の状況【RESAS：農林水産業マップ－農業花火図】

農業部門別 販売金額（総額）

長野県塩尻市

販売金額（総額）：633,925万円



農業部門別販売金額をみると、塩尻市は、露地野菜（レタス、キャベツなど）の割合が高い。

【出典】RESAS 農林水産業マップ－農業花火図／農林水産省「農林業センサス」再編加工

【注記】農産物の販売金額は、下式による推計値。
販売金額＝Σ（各階層中位数×各階層経営体数）

経営体：販売のあった経営体
農業部門：農林業センサスの部門分類に農作業請負収入を追加。
旧市区町村とは、1950年（昭和25年）当時の市区町村

農産物販売金額の比較【RESAS：農林水産業マップ－農産物販売金額】

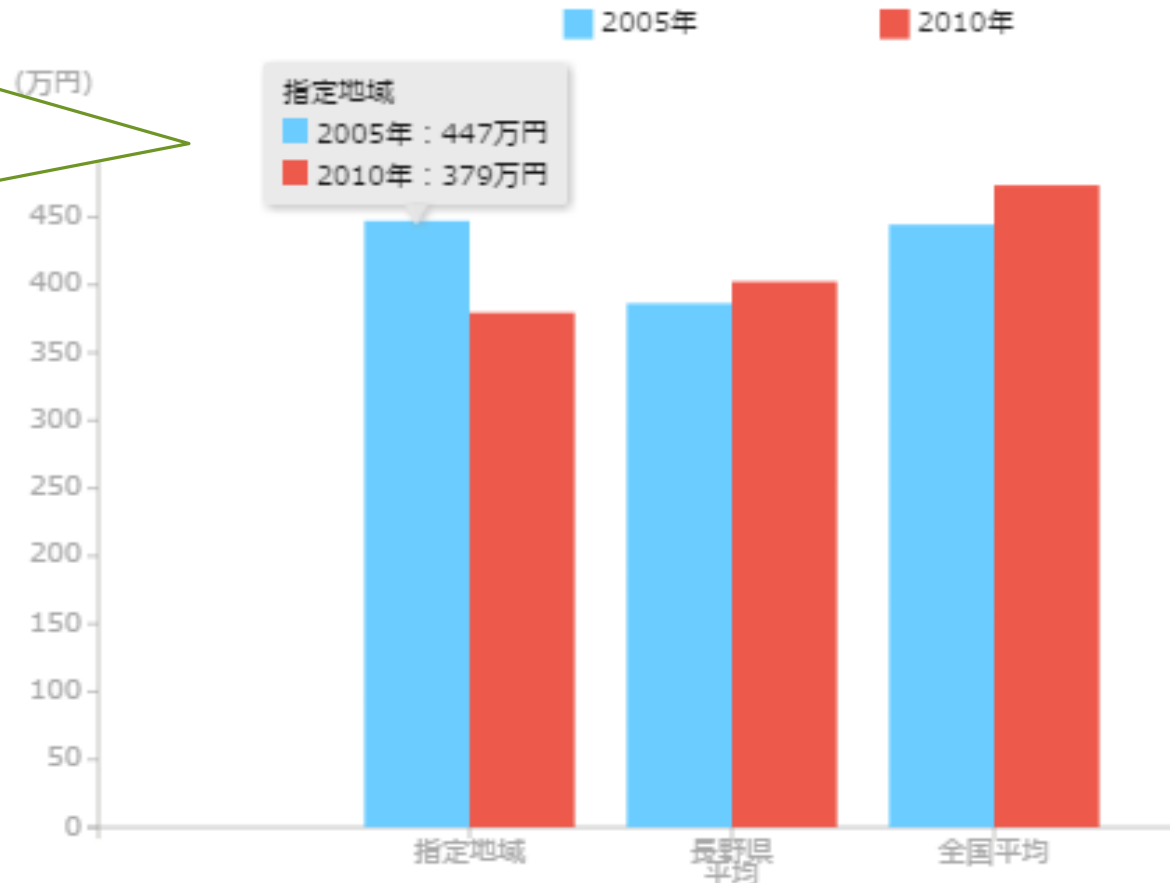
2005年から2010年にかけては、全国平均、県平均ともに増加しているが、塩尻市は減少しており、2010年は379万円である。

2010年の数値で全国平均、長野県平均と比較すると、全国平均、長野県平均より低い。

農産物販売金額（経営体あたり）

指定地域：長野県塩尻市

農業部門：すべての農業部門



【出典】RESAS 農林水産業マップ－農村部津販売金額／農林水産省「農林業センサス」再編加工

【注記】農産物の販売金額は、下式による推計値。

販売金額＝ Σ （各階層中位数×各階層経営体数）

経営体：販売のあった経営体

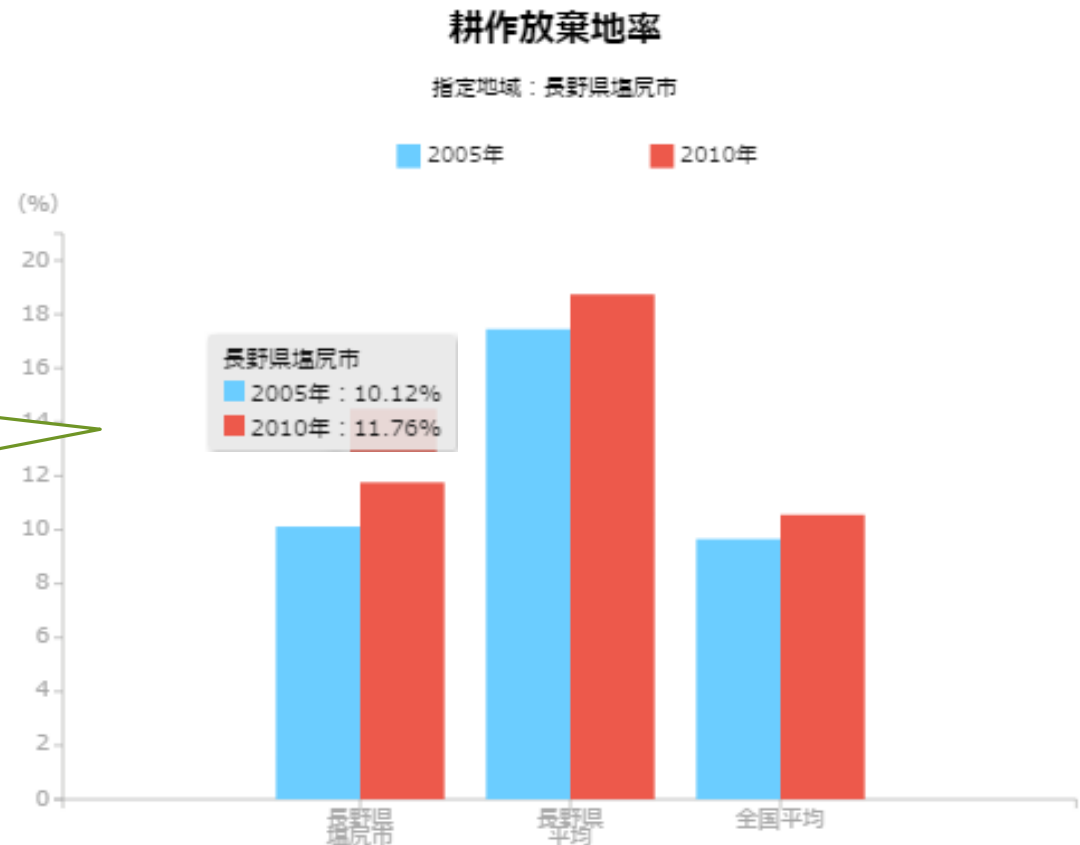
農業部門：農林業センサスの部門分類に農作業請負収入を追加。

旧市区町村とは、1950年（昭和25年）当時の市区町村

耕作放棄地率の比較【RESAS：農林水産業マップ－耕作放棄地率】

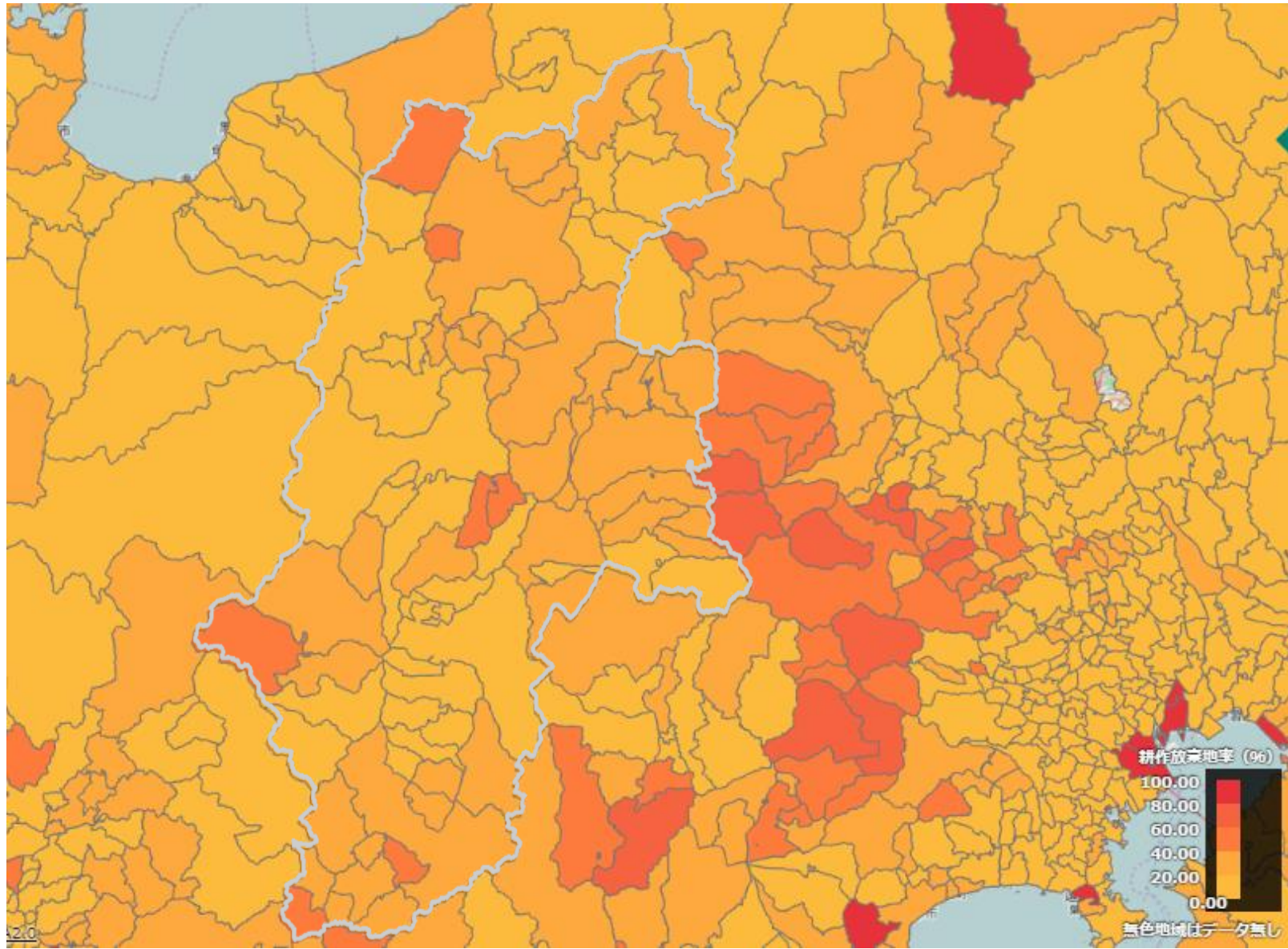
塩尻市の耕作放棄地率は、2005年から2010年にかけて増加している。2010年は11.76%である。2010年の数値を全国平均、長野県平均と比較すると、全国平均よりは高いが、県平均よりは低い。

耕作放棄地とは
農作物が1年以上作付けされず、農家が数年の内に作付けする予定が無いと回答した田畑、果樹園



耕作放棄地率 = (総農家の耕作放棄地面積 + 土地持ち非農家の耕作放棄地面積) ÷ (総農家の経営耕地面積 + 総農家の耕作放棄地面積 + 土地持ち非農家の耕作放棄地面積)

【参考】長野県の耕作放棄地率



●産業構造と基幹産業

- 従業者数が多いのは「製造業」、次いで「卸売業・小売業」である。
- 塩尻市の産業において「製造業」が占める比率は、長野県・全国と比較して高い。
- 製造品出荷額等をみると、長野県内の市町村では1位である。
- 稼ぐ力分析でみると、製造業の付加価値額は高いが、労働生産性は低い。

⇒塩尻市の基幹産業は「製造業」である。

製造品出荷額等は県内1位であり、長野県を牽引している。

●農林業

- 農業部門別販売金額では露地野菜（レタス、キャベツなど）の割合が高い。
- 農産物販売金額は、2005年から2010年にかけて下がっている。
- 耕作放棄地率は上がっている。しかし、長野県平均と比較して、その比率は低い。

⇒農業では、レタスやキャベツなどの露地野菜の販売金額が多い。

経営体あたりの販売金額は下がってきている。

■ 「長野県RESAS情報発信サイト」のご案内

信州をデータに基づいて分析し、課題発見や未来に向けた地域づくりの活動に役立てていただくためのRESAS情報サイトを開設しました。

「長野県RESAS情報発信サイト」 (事務局: 特定非営利活動法人SCOP)

<http://npo-scop.jp/resas-nagano/index.html>

長野県 RESAS 情報発信サイト

データで信州の未来を創ろう
RESAS

実施レポート
出前講座・セミナー等の実施レポートや分析例をご紹介します

講座のご案内
対象者別に出前講座やセミナー等の実施についてご案内

関連リンク
まち・ひと・しごと創生本部のホームページや活用事例を紹介

CHECK 講座のレポート分析をチェック
※coming soon

各種マップを活用したアウトプット例の紹介

高校・大学関係者の方はコチラ

NPO・市民団体・企業関係者の方はコチラ

- RESASポータル
- RESASに関するお知らせ(まち・ひと・しごと創生本部)
- RESAS最新情報(まち・ひと・しごと創生本部)
- 「政策アイデア☆コンテスト」公式サイト
- RESAS活用事例集

facebook



Facebookページも開設しました！

データから考える信州の未来。

<https://www.facebook.com/resasnagano/>